週刊 YEAR BOOK

1929 昭和4年 日録20世紀

7|14
平成10年7月14日発行
(毎週1回発行)第2巻第26号
¥560
講談社

「暗黒の木曜日」と世界大恐慌!

大ヒット曲「東京行進曲」と"最先端"風俗
「朝鮮疑獄」ほか、昭和4年夏は"疑獄の季節"
東条英機、永田鉄山ら「一夕会」結成の夜

「ジャズ、ダンサー、リキュール、ラッシュアワー、シネマ」横文字をちりばめて表現した〝最先端風俗〟「東京行進曲」

▲この年5月に発売され、爆発的ヒットとなった「東京行進曲」楽譜の表紙。

▼夜の銀座が描かれた、資生堂製作の団扇。銀座の夜の照明は明るく、夜店も軒を並べ、そぞろ歩きの人でにぎわっていた。 資生堂提供

▲昭和5年の銀座通り。右側手前が山口銀行（現・三和銀行)、その先が松屋銀座店。 尾形光彦提供

◎表紙　昭和4年6月、流行の先端をいくファッションで、〝銀ブラ〟を楽しむモガ。 影山光洋

二五万枚の大ヒット!

モガ・モボ全盛の東京の最新風俗をテーマにした「東京行進曲」が、二五万枚という空前の大ヒットとなった。流行歌の第一号である。後に〝歌謡曲の女王〟と呼ばれた佐藤千夜子のこの曲は、映画、レコード、ラジオという新興のメディアによって作り出された、マスコミ主導型のニュータイプのヒット曲でもあった。

爆発的売れ行きでプレス機フル稼働

昭和四年の早春、東京は皇居に近い赤煉瓦の三階建てビルに、緊張した面持ちの一団が集まっていた。そして、まだ珍しいマイクロホンの前に、身長一六五センチ、体重七五キロ、バスト一〇〇センチという、当時としてはずば抜けて大柄な女性が立っていた。

まもなく彼女はよく響く、透きとおったソプラノで歌い始めた。

〽昔恋しい銀座の柳／仇な年増を誰が知ろ／ジャズで踊ってリキュールで更けて……

彼女の歌声は、スリーコーラスまでは順調に進んだ。だが、四番で、作曲家の中山晋平（四二）が待ったをかけた。

〽シネマ見ましょかお茶のみましょか　いっそ小田急で逃げましょか　変る新宿あの武蔵野の……

どう聞いても、「新宿」が「スンズク」としか聞こえないのだった。

この女性は佐藤千夜子（三一）。山形

▲「東京行進曲」を歌った佐藤千夜子。人気絶頂期にイタリアに渡り、オペラ歌手を志したが失敗、借金を抱えて帰国。晩年は恵まれなかった。

◀作曲の中山晋平。「東京行進曲」のほかに「東京音頭」「波浮の港」など、生涯3000曲を作曲。

▼作詞を担当した西條八十。ほかに「東京音頭」「旅の夜風」なども手がける。

毎日新聞社

▲銀座の酒場、ボルドー。昭和初期、裏通りに一歩足を踏み入れると、バーの看板が氾濫していた。

県大童町の生まれで、東京音楽学校（現・東京芸術大学）の出身だった。日本で初めての流行歌の吹きこみが行われていたのである。何度もやり直したすえ、それでも東北訛りが拭いきれなかったレコードは、テンポのよさと、奇妙なぬくもりがこめられていた。

この「東京行進曲」は、一〇〇万部を超える雑誌「キング」連載中の菊池寛の同名の小説を原作に製作された日活映画（溝口健二監督）の主題歌だった。作詞を依頼された西條八十（三七）は、「原作のストーリーにこだわらなくてもいい」という申し入れに、すぐさま「東京の風俗の戯画」を思い立ったという。

こうして誕生したSPレコード「東京行進曲」は、この年五月一日に発売され、たちまち、爆発的な売れ行きの大ヒットとなった。売り上げ枚数は五〇万枚とも二五万枚とも言う。当時は、三〇〇〇枚で利益が出るとされていたから、いかに桁はずれの数字だったかがわかる。発売元の日本ビクターが新鋭プレス機一二台をフル稼働させても、注文に追いつけなかった。

「当時、レコード売り上げの公称は、ビクター、コロムビアが二倍、そのほかが三倍に水増しが相場でした。『東京行進曲』の実売は二五万枚程度が妥当な線」と言うのは、音楽評論家の長田暁二氏である。

〝流行歌手第一号〟となった佐藤は、その後、「紅屋の娘」「愛して頂戴」などのヒットを飛ばした。義妹の佐藤歌子さんによれば、千夜子の年収はサラリーマンの平均的な月収が三〇円だった時代に、一万二〇〇〇円にも達した（「文藝春秋」平成二年二月号）。

▲銀座の歳末風景。震災前は江戸の名残りがあった銀座も、この頃はすっかりモダンな街に変わっていた。 朝日新聞社

映画、レコード、ラジオのメディア・ミックスで成功

「東京行進曲」は三重、四重に時代の流れに乗った作品だった。

この時代は、大正一二年の関東大震災の打撃がようやく薄れ、明るさを取り戻す一方、相次ぐ銀行の破綻と「大学は出たけれど」に象徴される不況・就職難の嵐が吹くという、相反する雰囲気が混在していた。それに対応して若者の反応も、ロシア革命と大正デモクラシーに触発されたマルキシズム志向の青年と、盛り場で享楽に走るモボ、モガ（モダンボーイ、モダンガール）へと二極分解していたのである。それは、全共闘運動華やかな頃に大量のヒッピーが併存していたのと、よく似た構図だった。

〽シネマ見ましょかお茶のみましょか、という四番のくだりは、作詞した西條八十のオリジナルでは「長い髪したマルクスボーイ　今日も抱える『赤い恋』」だった。ところが当局を刺激するのを恐れたレコード会社の意向で、先のように変更されたのだった。実際、当時は知識人を中心にマルキシズム全盛と言われていた。この年四月には、「四・一六事件」と呼ばれる第二次共産党弾圧が起きている。にもかかわらず、ノルウェーなどで世界最初の女性大使として外交官生活を送ったソ連の革命家・作家であるコロンタイの世界的ベストセラー小説『赤い恋』を、青白い長髪の青年が、小脇に抱えて歩くスタイルが大流行していたのである。

関東大震災で様相を一変させた東京の盛り場の代表格は、銀座だった。名物の柳並木は大正一〇年にすっかり抜かれ、プラタナスに変わっていたが、カフェーが並び、パーマ姿や断髪のモガ、ハイカラなモボ、エプロン姿の女給が闊歩する最新のファッションが次々と現れる街だったのである。

また、当時の銀座には、失業対策の一環として、警視庁がこの年七月、臨時露店を一斉に許可、立ち並ぶ露店の数は一万六〇〇〇店を超えた。だが、それもアッという間に過当競争におちいり、一一月にはそのうち一万店があえなく姿を消していく。

西條は、こうした時代の風潮を「ジャズ、ダンサー、リキュール、ラッシュアワー、シネマ」などの横文字を駆使して、表現したのである。

「東京行進曲」は〝映画小唄〟と言われた。それ以前にも「船頭小唄」「籠の鳥」など歌謡映画がなかったわけではない。ただそれらは〝小唄映画〟と言われ、あくまでヒット曲を映画に仕立てたものだった。これに対し、「東京行進曲」は最初からレコードと映画のタイアップ企画として進められた。

「『東京行進曲』は、映画とレコードに加え、ラジオという新しく生まれてきた三つのメディアが相乗りで作ったマスコミ主導型の大ヒットでした。当時、繁華街で客やダンサーは、この曲でチャールストンを踊っていたのです」（長田氏）

このように当時の東京のモダン風景を表現した「東京行進曲」は、全国的に受け入れられ、大ヒットした。

ちなみに、佐藤は一八歳と称していた。流行歌手第一号は、今も芸能界に残る〝年齢詐称〟に先鞭をつけた人物でもあった。

「ジャズ、ダンサー、リキュール、ラッシュアワー、シネマ」
横文字をちりばめて表現した〝最先端風俗〟

「東京行進曲」25万枚の大ヒット!

東京の歌いまむかし

歌謡曲の世界で、東京は繰り返し歌われるかっこうの題材である。だが、最もさかんだったのは、高度成長前夜、つまり東京の過密化が始まる昭和30年代前半のことだった。

発売年	曲名	作詞	作曲	歌手	売り上げ枚数
昭和8年	東京音頭	西條八十	中山晋平	小唄勝太郎 三島一声	推定50万枚
昭和10年	大江戸出世小唄	湯浅みか 藤田まこと	杵屋正一郎	高田浩吉	推定20万枚
昭和11年	東京ラプソディー	門田ゆたか	古賀政男	藤山一郎	30万枚
昭和21年	東京の花売娘	佐々詩生	上原げんと	岡晴夫	推定18万枚
昭和22年	夢淡き東京	サトウハチロー	古関裕而	藤山一郎	推定11万枚
昭和23年	東京ブギウギ	鈴木勝	服部良一	笠置シズ子	30万枚
昭和24年	銀座カンカン娘	佐伯孝夫	服部良一	高峰秀子	推定42万枚
昭和25年	東京キッド	藤浦洸	万城目正	美空ひばり	50万枚
昭和26年	東京シューシャインボーイ	井田誠一	佐野鋤	暁テル子	推定20万枚
昭和30年	東京アンナ	藤間哲郎	渡久地政信	大津美子	60万枚
昭和32年	東京のバスガール	丘灯至夫	上原げんと	コロムビア・ローズ	推定40万枚
昭和33年	有楽町で逢いましょう	佐伯孝夫	吉田正	フランク永井	推定80万枚
昭和32年	東京だよおっ母さん	野村俊夫	船村徹	島倉千代子	推定60万枚
昭和33年	銀座九丁目は水の上	藤浦洸	上原げんと	神戸一郎	推定20万枚
昭和34年	東京ナイト・クラブ	佐伯孝夫	吉田正	フランク永井 松尾和子	推定90万枚
昭和36年	銀座の恋の物語	大高ひさを	鏑木創	石原裕次郎 牧村洵子	123万枚
昭和36年	東京ドドンパ娘	宮川哲夫	鈴木庸一	渡辺マリ	推定40万枚
昭和38年	東京五輪音頭	宮田隆	古賀政男	三波春夫	110万枚
昭和39年	東京ブルース	水木かおる	藤原秀行	西田佐知子	推定60万枚
昭和39年	ああ上野駅	関口義明	荒井英一	井沢八郎	推定80万枚
昭和40年	東京流れもの	永井ひろし	桜田誠一	竹越ひろ子	40万枚
昭和44年	新宿の女	石坂まさを みずの稔	石坂まさを	藤圭子	37万枚
昭和51年	東京砂漠	吉田旺	内山田洋	クールファイブ	17万枚
昭和57年	東京セレナーデ	たかたかし	小林亜星	都はるみ	11万枚
平成6年	東京は夜の7時	小西康陽	小西康陽	Pizzicato five	2万枚

▶ダンスホールに勢ぞろいしたダンサーたち。パーマネントや断髪の彼女たちは、当時の女性にとって、憧れの職業だった。

政党政治の実態は〝金権腐敗〟だった！
昭和四年夏は「疑獄の季節」
「朝鮮疑獄」「五私鉄疑獄」「売勲事件」が次々発覚！

▲この年9月26日、「五私鉄疑獄」で、東京地方裁判所に召喚される小川平吉・前鉄道大臣。 朝日新聞社

作家・松本清張によると、「江戸時代以降、日本では賄賂が一種の必要悪とされてきた」という。たしかに、大正時代は現在の汚職の原型が出そろったと言えるほど、〝汚職花盛り〟だった。こうして日常茶飯事と化した汚職は、昭和初期になっても、より陰湿に、庶民を無視した形で連続発生し、政党政治に決定的な不信感を抱かせる原因となったのである。

政界中枢に捜査のメス 元大臣〝オガ平〟の召喚

昭和四年九月二六日、東京・内幸町には大物政治家の連行を一目見ようと、早朝から大勢の報道陣や野次馬が駆けつけていた。降りしきる秋雨の中、警視庁の刑事四人が小川平吉・前鉄道大臣（五九）の邸宅に到着したのが朝の六時三〇分。

二階の応接間で起きぬけに召喚状を見せられた小川は、刑事の同行をきっぱり断って彼らを帰すと、せき子夫人に出された朝食を無言で取ったという。

「轢き殺しても知らないよ」――午前八時九分、お抱え運転手や秘書官らが興奮した様子で門前の群衆に怒鳴りちらす。すると、焦げ茶の中折帽に和服姿で現れた小川が玄関前の自動車に乗りこみ、

◀昭和5年9月26日、東京地方裁判所で、「朝鮮総督府疑獄事件」の公判が開かれ、前総督の山梨半造は和服で出頭した。

東京地方裁判所へ任意出頭した。八月下旬の事件発覚以来、新聞をにぎわせ続けた「五私鉄疑獄」は、ついに捜査のメスが政界中枢におよんだのである。

小川はその後、鉄道利権にからむ収賄容疑で起訴されるが、司法大臣と鉄道大臣を経験した政治家が収監されるのは異例の出来事。そのため、天皇の許可を得る〝上奏裁可〟を経ての召喚だった。

明治から昭和にかけて、鉄道の敷設認可や政府買い上げなどは――「我田引鉄」と言われたように――政治家の利権の巣窟になっていた。中でも、昭和二年に成立した政友会・田中義一内閣で甘い汁を派手に吸ったのが小川である。

在任中の彼は、博多湾鉄道・北海道鉄道の政府買収、伊勢電気鉄道・東大阪電気鉄道・奈良電気鉄道の敷設認可にあたり、約五〇万円の賄賂を鉄道業者から得ていたと言われる。田中内閣総辞職の直前に、謝礼二〇万円で東大阪電気鉄道と奈良電気鉄道の敷設の決裁をしたと判明した時は、「オガ平（小川の通称）の食い逃げ」と揶揄される始末だった。

大正時代の末期から昭和初期は疑獄事件が〝恒例行事〟と化した時期だった。

「民衆の意思が反映される政党政治がこの時代に構築されたかに見えますが、その実態は、活動資金や利権をむさぼる資本家の献金がつきまとう〝金権政治〟だった。こうした金権体質が定着した昭和初期には、裏でさかんに汚職行為が行われていたわけです」

こう語るのは、日本近現代政治史の原田勝正・和光大学教授である。

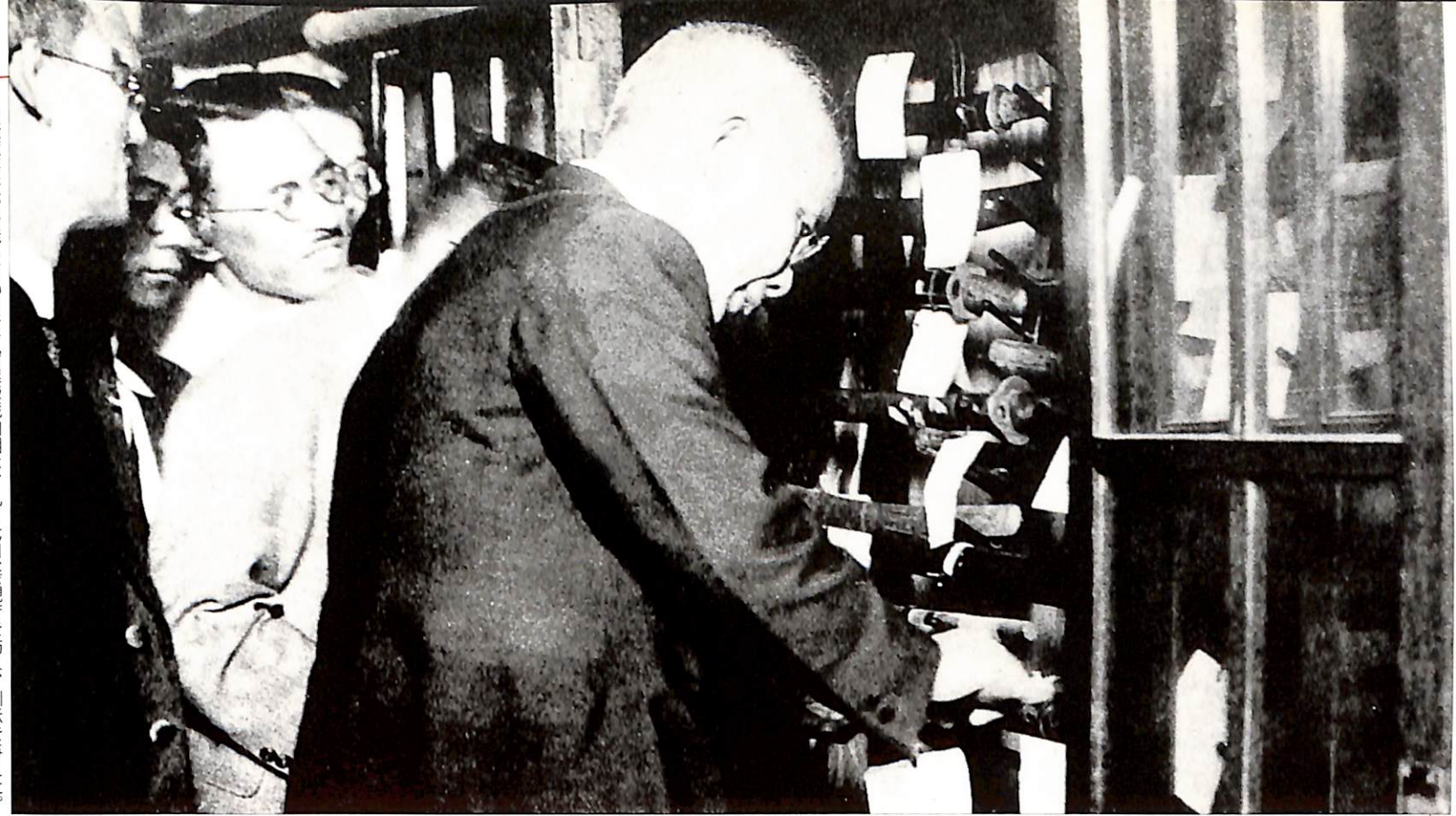
実際、昭和元年には大阪の遊廓移転に際して、不動産業者が代議士に賄賂を送っていた「松島遊廓事件」が発覚する。

昭和三年には、東京市会で、大汚職事件が発生した。それは板舟権（魚市場の売場権）補償に端を発し、京成電鉄の市内乗り入れ認可や、市営バス購入、江東青果市場移転補償をめぐる贈収賄容疑で、市会は定員八八人のうち二五人、さらに三木武吉代議士や正力松太郎・読売新聞社社長などが逮捕勾留された。その結果、一二月に内務大臣・望月圭介は強制命令で東京市会を解散させる。

こうして汚職に染まりきっていた昭和初期の中でも、特に昭和四年の夏は連続して汚職事件が発覚。後に「疑獄の季節」と呼ばれることになるのである。

▶越後鉄道国有買収問題で、収賄容疑の元文相・小橋一太の公判が、昭和五年五月一一日に開かれた。

続発する疑獄事件で高まった庶民の怒り

「疑獄の季節」の幕開けは、この年六月に発覚した「朝鮮疑獄」だった。

▶疑獄事件が多発している折、安達謙蔵内相は、九月七日、警視庁を訪れ、訓示を与えた。

国際写真情報／国際フォト

▼昭和3年、魚市場移転の際の板舟権補償に端を発し、京成電鉄の市内乗り入れなどにからむ贈収賄事件で、東京市会議員25人が勾留され、12月、内務省は解散命令を出した。選挙は翌4年3月16日に行われ、64人の新人が当選したのに対し、前議員はわずか20人。写真は初当選の堺利彦(中央)。

毎日新聞社

これは、朝鮮総督の山梨半造陸軍大将（六五）が、釜山に米穀取引所設置の認可をするのに、川崎徳之助・川崎商事社長から五万円を貰ったとして収賄の罪に問われたもの。浜口雄幸内閣は、「朝鮮利権を手にしたくて、田中前首相は息のかかった山梨を朝鮮総督に起用した」と前首相を非難した。

さらに、「五私鉄疑獄」と同時期にあばかれたのが「売勲事件」である。天岡直嘉・内閣賞勲局総裁（四八）は、叙勲を奏請する地位を濫用。堤清六・日魯漁業会長（四九）、福沢桃介・大同電力社長（六二）ら財界人から八万円近い賄賂を得ていた。天岡が桂太郎元総理の娘婿で、田中前内閣の賞勲局総裁に〝コネ登用〟されたため、政治問題化した。

昭和四年夏に汚職事件がたてつづけにあばかれた理由について、ジャーナリストの室伏哲郎氏は次のように分析する。

「政界を二分していた政友会と民政党が疑獄を政争に利用したのです。昭和四年当時で言えば、七月に、政友会・田中義一内閣の後に成立した民政党・浜口内閣は、この機に政友会の勢力をそごうとして〝醜聞あさりの名人〟と言われた安達謙蔵内務大臣（六四）が中心となり、旧政友会内閣の旧悪を片っ端から暴いたんです」

政争に利用されたとはいえ、次々と発覚する疑獄のオンパレードに憤りを見せたのが、不況で爪に火をともすような生活をしてきた庶民だった。

「こうした事件は従来、竜頭蛇尾に終わりがちでした。今度こそ最初の意気ごみを忘れないでください」「内閣に浜口あり、警視庁に丸山総監あり」……。警視庁や裁判所には、全国各地からこうした激励の手紙が殺到した。

結局、一連の疑獄事件は、冒頭の「五私鉄疑獄」の小川前大臣に懲役二年の判決が言い渡され、「朝鮮疑獄」の山梨前朝鮮総督は、「賄賂という認識がなかった」という理由で無罪。「売勲事件」の天岡前賞勲局総裁には、懲役二年と一万四二五〇円の追徴金が科された。

「一連の疑獄事件によって、庶民は政権欲や利権欲にまみれた政党政治への不信感を強めていきました。やがてそれは、テロリズムの頻発とともに、日本の政治を軍部やファッショ的傾向へ退潮させる原因にもなったのです」（室伏氏）

政界の腐敗は、昭和五年の浜口首相狙撃、七年の犬養毅首相暗殺といった右翼テロや、戦争体制への突進に絶好の口実を与えることになるのである。

女たちの肖像

名門出に加えて天成の美貌「処女を守る会」までできた入江たか子、〝傾向映画〟主演

稲葉真弓

▲昭和4年4月19日に封切られた〝傾向映画〟「生ける人形」の入江たか子。右は小杉勇。

この年、左翼的思想を持った日活の〝傾向映画〟第一号、「生ける人形」が封切られ、大変な話題となった。片岡鉄兵の小説が原作で、監督は内田吐夢、主演は入江たか子（一八＝本名・東坊城英子）。入江の役柄は、政界や実業界に野望を抱く田舎出の青年を軽くあしらう都会的なタイピスト嬢で、これまで日本映画には登場しなかった近代的ヒロインとしてたちまち反響を呼び、〝傾向映画〟ブームの先駆けとなった。

彼女はこの年、一三本の映画に出演したが、「生ける人形」は昭和四年度のベストテンで四位、ほかにも出演作品が二本ベストテン入りするなど話題の人となり、翌年も一二本の映画に引っぱりだこ、日活の撮影所内に彼女の「処女を守る会」なるものができたのもこの頃のことである。

父の東坊城徳長は子爵で貴族院議員、母・君子も京都の老舗料理屋の娘。彼女は七人姉兄の六番目に生まれたが、父の死後は生活が困窮、文化学院に入学してからも月謝が払えないという没落華族ぶりだった。

彼女の私生活は自伝『映画女優』に詳しいが、昭和二年に日活入り。その後、片岡千恵蔵に失恋、中野英治の執拗な求婚を退け、昭和七年、俳優の田村道美と結婚。田村は人気にさわるからと式もあげず、一八年に娘の若葉（現・女優）が生まれるまで未入籍という〝不本意な結婚〟だった。

昭和七年、入江プロダクションを創立、代表作となった「滝の白糸」「月よりの使者」「良人の貞操」を撮ったが、一二年、プロダクションを解消。彼女を支え続けた兄とマネージャーである夫との間に、不協和音が生じたためである。戦後は人気にかげりが出始め、昭和二五年には女優にとって致命的なバセドー病を宣告された。すでに夫と別れ、二児を持つ身、手術費用捻出のため次々に脇役を引き受け、大手術を乗り切った。この後、大映の〝化け猫映画〟に出演し大当たり。〝化け猫女優〟として親しまれたが、三三年に映画界を引退し、翌年、銀座のバーのマダムに転身した。晩年は大林宣彦監督の作品で品のある老け役を見せ、平成七年一月、肺炎で死去した。

勝者・敗者

東京―大阪を八日で走破！超苛酷なレースで優勝した山田兼松の仰天〝活力の素〟

阿部珠樹

マラソンで山田と言えば、昭和二八年、ボストンマラソンに優勝した山田敬蔵の名前がまず浮かぶ。しかし、戦前にも、もう一人、山田姓の名ランナーがいた。山田兼松と言う。

山田兼松は香川県の出身で、明治三六年生まれ。香川名物の塩田で働きながら、誰の指導も受けずにマラソンを練習し、いつの間にか日本のトップランナーにのぼりつめた、いわば立志伝中の人物である。

昭和三年、アムステルダム・オリンピックに出場。この時、いかにも〝野育ち〟らしい豪快なエピソードを残している。山田は大変なヘビースモーカーで、アムステルダムにも大量の日本タバコを持っていった。ところが、これが入国審査でとがめられてしまったのだ。

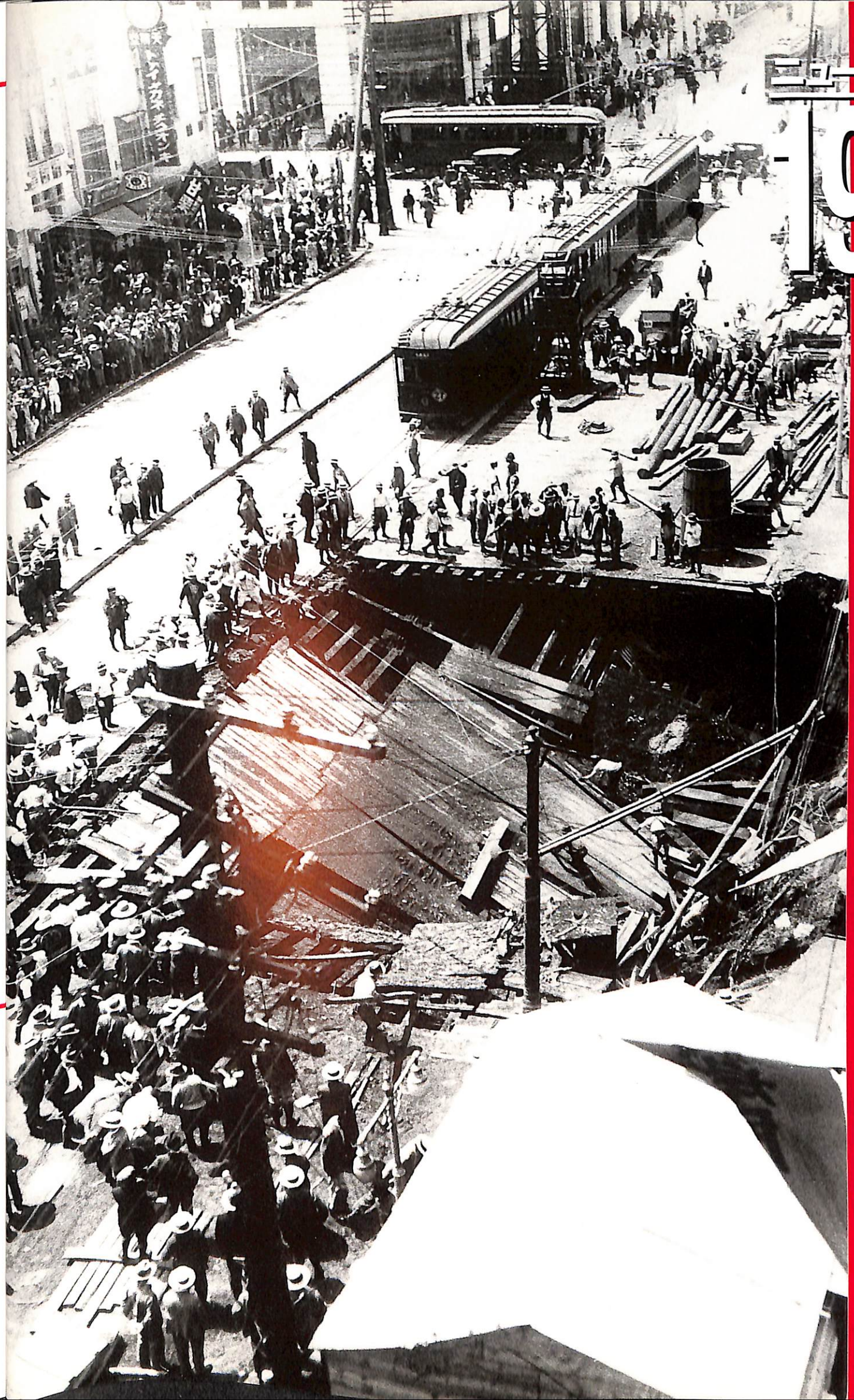
見慣れない日本タバコを見た役人が、これは何だと質問する。山田が「日本のタバコだ」と胸を張ると、役人が首をひねる。当時からヨーロッパのスポーツマンはタバコに敏感で、一流になるほどタバコを吸う人はいなかった。ところが、このオリンピックに出るという日本人は、こんなにタバコを持ちこもうとしている。おかしい。ひょっとしたら密輸か？

だが山田は「タバコは自分の活力の素だ」と胸を張り、押し通した。そしてその言葉どおり、試合前にタバコをたっぷり吸いながら、本番では日本人として初めて四位に入賞してしまったのだ。

この豪快なランナーが真骨頂を見せたのが、昭和四年六月二三日から行われた四〇〇マイル・マラソン大競走会だった。大阪―東京間三七六マイル（約六〇五キロ）を八日間で走るという長距離レースで、五〇〇人余りの希望者から選出された二〇人が、東海道をひた走った。

二五歳の山田は、最初の二日間ほどはペースをセーブしていたが、途中から先頭に立つと、独走につぐ独走、八日間を五九時間二九分一一秒で走り切り、みごとに優勝した。一日平均の走行距離は約七五キロ。こんなタフな仕事をやりとげることができたのも、山田に言わせれば、また、タバコのおかげだったのかもしれない

毎日新聞社

▲400マイル・マラソンで、米原に到着した山田選手。

呉市企画部海事博物館推進室提供

◀補助艦、増強着々(1月20日)ワシントン条約下、巡洋艦などの強化に取り組んできた海軍の計画が姿を見せ始めた。写真は完成間近の重巡洋艦「妙高」。この年前半までに、同型艦4隻が勢ぞろいした。

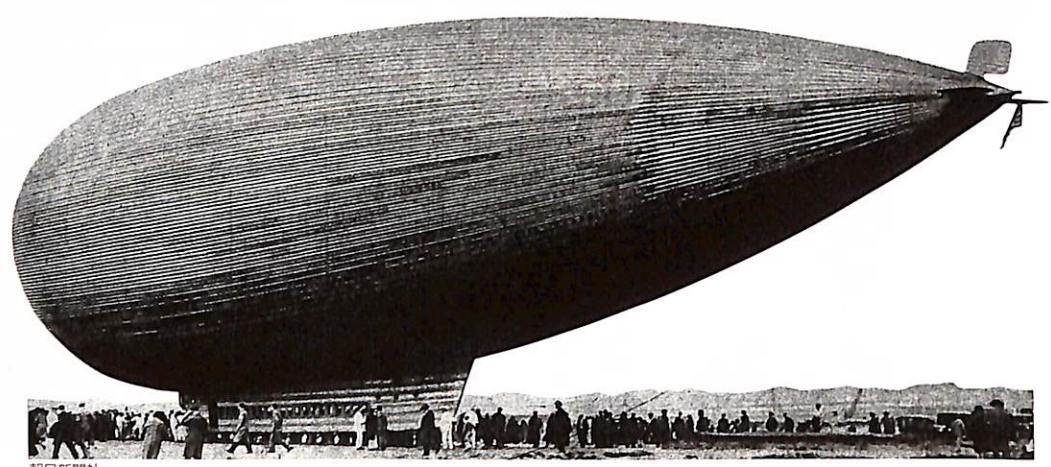
▼全金属製飛行船試作(1月9日)蒸気を推進力に、カリフォルニア州で初飛行。米国は安全なヘリウムガスを大量に入手できたため、安全性、高速・長時間飛行をめざす開発競争で優位に立っていた。

朝日新聞社

◀「満州某重大事件」追及(1月25日)民政党・中野正剛が、衆院予算委で中国軍閥・張作霖が爆死した事件について田中義一首相を問責。首相は「調査中」と逃げたが、後、天皇に譴責されて辞職した。

毎日新聞社

▲仕事を！(1月)横浜市が失業対策を連日から隔日に変更したところ、労働者多数が役所に押しかける騒ぎに。都市部の失業は深刻、「餓死同盟」を名乗る不穏なデモも目新しくなかった。

▶「犀川切り落とし」反対(1月8日)岐阜県の7町村の農民が木曾川支流改修計画は耕地をつぶすと抗議、200人余が検挙された。写真は支援の炊き出し風景。工事は11日、中止となった。

毎日新聞社

▼東和商事、独に映画輸出(1月)前年に配給会社を起こした川喜多長政が、宿願を実行。溝口健二監督「狂恋の女師匠」に決め、京都に監督(右)と主演の酒井米子を訪ねた。

川喜多記念映画文化財団提供

昭和4年1月

1(火)●強風のため佐世保で汽船沈没。三〇人死亡。
2(水)●日本海側で猛吹雪。強風による津波で富山県中心に死者多数、家屋損壊・漁船流失相次ぐ。
3(木)●信越のスキー場繁盛、赤倉には八〇〇人滞在。
4(金)●警視庁、宮城前で続けてきた消防出初式を、場所がないとして本年限り廃止と決定。
5(土)●南京反日会、日本製品排斥の組織的運動決定。
6(日)●出初式に全国代表が参加、天皇が初めて観閲。
7(月)●英紡績業界が週四八時間労働を決定と新聞に。
8(火)●前年の社債発行額が一気に昭和二年の四割増、一〇億円突破の新記録、と新聞に。
9(水)●奉天に「東北政務委員会」成立(主席・張学良)。
10(木)●東京の「野宿者」の二割は失業の結果と新聞に。
11(金)●東京の主要交差点に横断地下道をと交通協会。
12(土)●上海市民アンケートで「敵国」の一位は日本。
13(日)●奥多摩スケートリンク開業。東京初の施設。
14(月)●朝鮮・元山の石油工場でスト(下旬以降一万人規模のゼネストに。四月、敗北して収束)。
●東京湾で軍艦の無線操縦実験が行われ成功。
15(火)●大礼記念タバコ「昭和」が在庫山積、と新聞に。
16(水)●武蔵野音楽学校(現・武蔵野音大)開校。
17(木)●旧労農党の水谷長三郎ら、労農大衆党を結成。
18(金)●警視庁、説教強盗警戒で警官二〇〇〇人動員。
19(土)●新渡戸稲造邸にピストル強盗。巡査二人狙撃。
20(日)●二つの女性団体が合同し「無産婦人同盟」結成。
21(月)●昭和三年米の収穫は対前年比三割減と農林省。
22(火)●感冒による死者が一日平均三五人、と新聞に。
23(水)●徳島連続ピストル強盗事件で小学校教員逮捕。
●民族舞踊を芸術に高めたスペインの世界的舞踊家・アルヘンチーナが来日。
24(木)●北上川が結氷、船舶の航行が不能となる。
●文部省、小学校での入試準備教育禁止を通達。
25(金)●民政党の中野正剛、衆院で「満州某重大事件」(張作霖爆殺事件)につき田中首相を追及。
26(土)●説教強盗への対応のまずさなどで苦境の警視庁、刑事部門の幹部人事を刷新。
27(日)●婦選獲得共同委、東京各所で街頭署名を行う。
28(月)●東京市立中等学校の入学試験は、通信簿選抜後に口頭試問を行うことに決定、と新聞に。
29(火)●東海道・中央・関西各線で続発した列車内窃盗事件は、鉄道省役人の犯行と判明。
30(水)●無人飛行実験中の海軍水上機がコントロールを失い、三浦半島上空を一時間迷走して墜落。
31(木)●ドイツで『西部戦線異状なし』刊行。

ニュース・ファイル

1929

フォト＋日録で再現する365日

「満州某重大事件」の処理で天皇の不信をかった田中義一内閣が瓦解、後継・浜口雄幸内閣の緊縮政策により不況が本格化し、「大学は出たけれど」が流行語に。そんな中、特急「富士」「さくら」が出発進行、カタカナ語をちりばめた「東京行進曲」が空前のヒットとなった。

◀東京・上野広小路で路面陥没(6月19日)突然、道路に大穴があき、市電もあわや。3人が転落したが、死者はなかった。上野－浅草間の地下鉄を新橋まで延長する工事中の事故で、雨で地盤がゆるんだためとされた。

毎日新聞社

▲日本初のパイプオルガン演奏(2月24日)貴族院議員の徳川頼貞が、上野の東京音楽学校に寄贈したもの。オルガン奏者・岡英三により、鍵盤と巨大なパイプが生み出す、中世教会音楽を彷彿とさせる音色が講堂に響き渡った。

▼婦人公民権案、上程(2月12日)婦選獲得同盟など東京・関西の婦人団体が、超党派の議員を通じて国会通過をねらったが、翌月、衆院で否決された。写真は18日、本会議傍聴に詰めかけた婦人たち。公民権獲得は戦後になってからである。

▲トロツキー、トルコへ追放(2月18日)ソ連政府が公式声明。スターリンとの党内闘争に敗れ、前年流刑、さらに家族とともに国外に追いやられた。写真は出国したトロツキー夫妻。右の男は、スターリンが放った秘密警察員だったという。

▶日本マネキン倶楽部が発足(3月4日)前年の大礼記念博でマネキンを誕生させた美容師・山野千枝子が創設。モデルと販売員を兼ねた会員を派遣するシステムで、最高給の職業婦人だった。写真は東京・丸ビル精養軒での発会式。

共同通信社

▲不倫女優、夫を突き落とす(2月2日)東亜キネマの女優・香川良子が、男優との恋路の邪魔と夫を泥酔させ、京都・五条大橋下に転落させた。幸い警官が救助、犯行が明らかになった。

朝日新聞社

▼ムッソリーニ、ローマ教皇とラテラノ協約締結(2月11日)イタリアと教皇庁が50年ぶりに和解。バチカン市国は独立、一方、ムッソリーニは体制固めに成功した。

「イリュストラシオン」

昭和4年2月

1(金)●歴代の警視総監九人、東京の強盗事件頻発問題で、首相に警告すると申し合わせ。
2(土)●作家・尾崎士郎に短銃不法所持で罰金二〇円。
3(日)●改造社、「改造文庫」の刊行開始。
4(月)●有名メーカーの醤油安売りで出荷を停められた東京・三越がついに手をあげたと新聞に。
5(火)●編集の自治めぐり大学当局と対立していた早稲田大学新聞会、廃刊を決め解散式。
6(水)●高級志向だった駅食堂が三等客本位に。二〜三円必要だった食事が一円以下で、と新聞に。
7(木)●干天で井戸水枯渇、兵庫県芦屋に水売り出現。
8(金)●『青い鳥』の翻訳めぐり権利争い。若月紫蘭が翻訳者と書店を相手どり損害賠償訴訟。
9(土)●民政党、二万人動員し倒閣民衆大会を開催。
10(日)●日本プロレタリア作家同盟(ナルプ)結成。
11(月)●強盗続発で番犬が引っぱりだこ、と新聞に。
12(火)●長崎県福江島で大火、役場など一五八戸焼失。
13(水)●陸羽東線で吹雪のため列車が半日立ち往生。
14(木)●シカゴでギャング抗争、密造酒めぐり七人を殺害(聖バレンタインの虐殺)。
15(金)●急発展する東京・新宿周辺で土地争奪さかん、相場は坪二〇〇〇円、と新聞に。
16(土)●紡績連合会、深夜業廃止の工場法改正に賛意。
17(日)●小作争議続発の山梨県で、地主四〇〇人が農民組合に対抗し株式会社設立。
●米・ユニバーサル航空、初めて機内映画を上映。
18(月)●今年の雛人形は前年比一割安、売れ筋は二〇〜三〇〇円で二万円の高級品も、と新聞に。
19(火)●初の国立種鶏場、愛知県岡崎市に開設。
20(水)●静岡県浜名郡の女子青年団が「親の意志でなく自分の意志で結婚を」と決議、と新聞に。
●森永製菓、濃縮タイプのコーヒー飲料を発売。
21(木)●茨城県で海軍機が水田に爆弾を誤投下、爆発。
22(金)●東京の白木屋で盗難よけの展覧会。防犯ベル、猛犬から十手まで展示。
23(土)●「説教強盗」妻木松吉、逮捕。強盗六五件。
24(日)●宮城県気仙沼で大火。九七〇戸が焼失。
25(月)●バスの発達などで乗客急減の東京市電、化粧直しなど対策に躍起、と新聞に。
26(火)●大日本紡績尼崎工場の女子工員一八〇〇人、深夜業廃止による賃下げをおそれ嘆願書提出。
27(水)●財政難の東京市、四〇〇人の人員整理を決定。
28(木)●前年末の電力五社電力供給能力は一六〇万、差し引き電力余剰は二八万、と判明。

▼澤田正二郎、民衆葬(3月8日)4日に急性中耳炎で死去。38歳。「国定忠治」「沓掛時次郎」などのヒットで新国劇の黄金時代を築いた巨星を悼み、東京・日比谷音楽堂に2万人が詰めかけた。

▶シャンツェ誕生(3月)大倉喜七郎の招きで、ノルウェースキー連盟副会長のヘルセットらが来日し、競技スキーを指導。以降、日本各地にシャンツェが誕生、写真は群馬県大穴スキー場のもの。

毎日新聞社

▲山本宣治、暗殺される(3月5日)東京・神田の定宿で、右翼・黒田保久二に短刀で刺され絶命。41歳だった。前年、初の男子普選で当選、共産党系唯一の代議士として、政府追及に孤軍奮闘していた。写真は現場。左上が黒田。

▼漁業の町・気仙沼、町の2分の1失う(2月24日)午前零時頃出火、8時すぎまで燃え続け、970戸を焼失。死者はなかった。同町は大正4年にも1000戸以上を焼く大火にあっている。

国際フォト

毎日新聞社

▲航空郵便ポストの登場(3月30日)日本航空輸送が、4月1日から東京—大阪—福岡間の定期郵便飛行を開始。逓信省は東京市内など64ヵ所に、空色に赤字の航空郵便専用ポストを新設した。

朝日新聞社

▲奈良・吉野山にロープウェー完成(2月17日)千本口までわずか3分ながら、桜の名所・下千本を眺望でき、評判を集めた。この年は小田急江ノ島線の開通など、観光開発ブームだった。

国際フォト

昭和4年3月

1(金)●群馬県伊勢崎高女生の「希望する夫の職業」は農業・商業が大部分、堅実さ戻る、と新聞に。
2(土)●香川県に小鳥熱が再燃し高値。十姉妹が三〇銭、コバルトセキセイは一〇〇円、と新聞に。
3(日)●千葉県津田沼消防部長が一一件の放火を自供。
4(月)●ハーバート・フーバーが米大統領に就任。
5(火)●右翼団員、旧労農党の山本宣治を暗殺。
6(水)●東京にジフテリア流行、一月以来九四五人。
7(木)●埼玉県の製糸工場で火災、一八棟全焼。
8(金)●米・フォックス映画社トーキー技師団、喧噪のため浅草での「東京の音」吹きこみに失敗。
9(土)●ベルリンで反ファシズム国際大会開催。
10(日)●大阪城で「攻防演習」、女子生徒も動員。
●悪性感冒流行、東京で一日から死者二一七三人。
11(月)●福井銀行、銀行合併を拒否し日銀特融を返還。
12(火)●閣議、戦争を違法としてその放棄を宣言した初の国際条約・不戦条約の「人民の名において」は、憲法に抵触しないとの解釈を決定。
13(水)●首相に辞職迫る男が、官邸玄関で割腹はかる。
14(木)●茨城県石岡町で大火、一五三〇戸焼失。
15(金)●渡辺政之輔・山本宣治の労農葬で数百人検束。
●明大野球部、米欧遠征に出発(二三勝一三敗)。
16(土)●普選初の東京市会選挙。堺利彦がトップ当選。
17(日)●奈良・興福寺で国宝・釈迦如来像が盗難と判明。
18(月)●富士見町(現・千代田区)に東京警察病院開院。
19(火)●レコード・フィルム同調方式の国産映画試写。
20(水)●警視庁、東京・日本橋のダンスホールを手入れ。
21(木)●初の麻雀全国大会開催。日本麻雀協会設立。
●「兵隊落語」の柳家金語楼、高座衰退の歯止めにと、出囃子に初めてジャズを使用。
22(金)●霞ケ浦航空隊の飛行船が名古屋まで夜間飛行。
23(土)●青森県車力村の小作争議団、幹部検束で警官と乱闘(29日、県の調停で争議勝利)。
●大学の卒業生の四割は就職できず、と新聞に。
24(日)●伊で総選挙。当選者は全員ファシスト党員。
25(月)●東京モスリン吾嬬工場で女工二四〇〇人が争議。賃上げ・食事改善を求める。
26(火)●ニューヨーク株式市場で過去最高の出来高。
27(水)●井上良馨子爵の遺族、遺言で襲爵辞退を発表。
28(木)●中国国民党三全大会で蒋介石の指導権が確立。
●国宝保存法公布。特別保護物を「国宝」と改称。
29(金)●沖縄の教員二七人、社会科学研究理由に処分。
30(土)●画家・東郷青児、愛人と自宅で心中未遂。
31(日)●大阪築港第一次修築工事、三二年目で完成。

◀東洋紡績、女子の深夜業廃止（4月1日）女子と年少者の、昼夜2交替制や14時間以上の労働を認めない、改正工場法の7月施行に先立ち、4工場で実施。写真は貼り紙に喜ぶ女子工員たち。鐘紡でもこの月、6工場で実施した。

朝日新聞社

▶国産戦車第2号、試作車完成（4月）陸軍技術本部が設計し、大阪陸軍工廠が製作。昭和2年完成の第1号戦車は失敗作だったが、今回は好成績を示し、89式軽戦車として採用された。写真は、さらに改良された中戦車タイプ。

◀島崎藤村「夜明け前」を執筆（4月）「中央公論」の4月号から、年4回・6年にわたって連載した。57歳の藤村が故郷・木曽馬籠を舞台に日本の近代の意味を追及、最後の長編小説だった。写真は、書斎で古記録を見る藤村。

▼一気に5大学誕生（4月1日）神戸高等商業学校が商業大学に、東京・大阪の高等工業学校が工業大学に昇格した。また、東京と広島には文理科大学が新設され、それまでの高等師範学校はその付属校となった。

朝日新聞社

▼天皇、横浜に行幸（4月23日）震災から5年目、山下公園の新設、道路拡幅など、復興事業が完了した市内を巡覧。横浜公園の奉迎会には約2万人が集合した。写真は、横浜駅前の奉迎門。

▲松坂屋上野店オープン（4月1日）地上8階、地下1階のルネサンス様式で、売り場面積約3万平方メートル。演芸大ホール、動物園もあり、大廉売を行った開店日には13万人が殺到。

昭和4年4月

1（月）●寿屋、初の国産ウイスキー「サントリー白札」を発売。
2（火）●貧困母子の扶助を規定した「救護法」公布。
3（水）●就職難で中学より実業学校志望激増と新聞に。
4（木）●東京市バス従業員、安全デーと称し、ノロノロ運転などのサボタージュ（～9日）。
5（金）●長崎県諫早高女で「御真影」紛失、町民四千余人が同校裏山一帯を捜索。
6（土）●数学者・高木貞治東大教授、アーベル百年記念祭でオスロ大から名誉博士号を授与される。
7（日）●阪神電鉄、甲子園娯楽場（阪神パーク）開園。
8（月）●小原国芳、玉川学園創設。幼・小・中が開校。
9（火）●徳島県貞光町で釣鐘鋳造、一〇万人が見物。
10（水）●小川鉄相が駅名表記を旧カナにと復古調指令。
11（木）●横須賀軍港で、水中爆破作業実習中に艦艇内の爆薬が暴発、練習生三四人が死傷。
12（金）●阿賀野川の船運業者数百人、発電所による損害を県庁に陳情に向かう途中、警官隊と乱闘。
13（土）●英国のテニストーナメントで太田芳郎が優勝。
14（日）●大阪鉄道の電車が満員の乗客の重みで坂を逆行、上太子駅で三重衝突、九七人が死傷。
●第一回モナコ・グランプリ開催。
15（月）●初のターミナルデパート、阪急百貨店開店。
16（火）●共産党に大弾圧、党組織壊滅（四・一六事件）。
17（水）●日本人の平均寿命は四十二、三歳と新聞に。
18（木）●東本願寺前法主・大谷光演、多額の負債を作り宗団資産に損害与えたと、僧籍削除。
19（金）●「傾向映画」の先駆、「生ける人形」封切。
20（土）●国債評価期日を控え政府が猛烈な買い出動、銀行の売りあびせを圧倒した、と新聞に。
21（日）●大日本麦酒、「シーズンビール」発売。
22（月）●襟裳岬沖で漁船沈没。百余人が行方不明。
23（火）●東京地下街会社、銀座・日本橋への地下街建設を警視庁に申請。
24（水）●総同盟、三越配達員争議で、一万人の買い物客を動員し、配達注文させるとの新戦術決定。
25（木）●茨城県大原村会議選で、ローマ字書きの一票を立会人が読めず無効票と処理、問題に。
26（金）●前年のタバコ消費量は三二〇億本、うち一〇〇億本近くが「ゴールデンバット」、と新聞に。
27（土）●日本ロータリークラブ、第一回大会開催。
28（日）●明大に新設の女子部開校式。一六〇人が入学。
29（月）●ソ連、第一次五ヵ年計画を決定。
30（火）●資源審議会、国家総動員演習計画案を承認。

証言・あの日この日
梶井基次郎（28）

3月31日（日） 〈山宣の追悼会で河上氏がはじめて大衆の前へ立つたといふ演説をきゝました、ほかの人間のやうに感情的ではなく、拍手をしても身動きもしないやうな態度で簡単な痛烈な演説をしました、ちよつとほかの人とちがふので、ほかのときにいゝ気になつて拍手してゐたやうな拍手ではちよつとこちらが恥かしくなるやうな間の悪くなるやうなところがあります〉（梶井基次郎「書簡」）

作家デビューを目前にしながら、結核のために大阪の実家に帰って療養していた梶井基次郎は、この頃、マルクスへの関心を高め、急速に左傾していく。毎日、岩波文庫の『資本論』や河上肇の『資本論入門』を読む。特に河上肇の言論活動に共感する。この日は、右翼に暗殺された山本宣治の追悼演説会を聞くため中之島公会堂へ。そこで、河上の演説を聞き、感動する。（山崎行太郎）

共同通信社

▲タゴール来日（5月12日）ノーベル文学賞を受賞したインドの詩人（68）が、3度目の日本滞在。朝日新聞社講堂で自然と人間の融合をめざす思想を語った。写真は6月3日、渋沢栄一邸のお茶の会で。

▼英第3皇子・グロスター公、来日（5月2日）国王特使として宮中正殿に参内し、日英親善をこめて天皇にガーター勲章を奉呈した。写真は横浜港に出迎えた秩父宮に、騎兵大尉の正装で敬礼する公。

「国際写真情報」/国際フォト

▼東京・正午の時報、「ドン」からサイレンに（5月1日）明治4年以来、市民にはおなじみだったが、軍縮下の経費節減などのため役目を譲った。設置場所も皇居から愛宕山（写真）などに移された。

共同通信社

「イリュストラシオン」

◀パリに日本学生会館（5月10日）仏社交界の花形・薩摩治郎八が、留学生のために寄贈。7層の城郭風建物で、開館式にはポアンカレ首相も出席。薩摩はレジオン・ドヌール勲章を受章した。

◀国産飛行艇最初の成功作（5月）広海軍工廠が生産した15式飛行艇4機が、横須賀—サイパン往復、4700キロという海上長距離飛行に完全成功。後に実現する「飛行艇王国」への第一歩を、みごとに踏み出した。

昭和4年5月

1（水）●佐藤千夜子歌う「東京行進曲」のレコード発売。
●東京の午報が「ドン」からサイレンに代わる。
●石川島自動車製作所（現・いすゞ自動車）、石川島造船所から独立し国産車の生産開始。
2（木）●南京・漢口両事件解決の協定書、南京で調印。
3（金）●東京湾漁業権疑獄で水産試験場技師らを起訴。
4（土）●東京市内の家賃高騰で二割が空き家と新聞に。
5（日）●大学書林、『語学四週間叢書』の刊行開始。
6（月）●関東・中部に遅霜、桑園の被害甚大。
7（火）●水戸公会堂で火災。横山大観らの絵画焼失。
8（水）●東京音楽学校に長唄科が新設され授業開始。
9（木）●東京で米の本格的トーキー映画「進軍」封切。
10（金）●パリ郊外の大学都市内に日本学生会館が開館。
11（土）●大阪の金融資本がソ連漁業区を落札した島徳事件、日魯漁業に名義変更することで解決。
12（日）●インドの詩人・思想家、タゴール来日。
13（月）●内務省、遊興税・入湯税など一〇税目の府県税・市町村税への配分を指定。
14（火）●放火事件の陪審裁判で、東京控訴院管内のみ無罪が続出、当局は困惑、と新聞に。
15（水）●林兼商店、山口県に鰤の蓄養場を開設。
16（木）●第一回アカデミー授賞式。チャップリン拒否。
17（金）●一三日完成の佐賀競馬場で初の競馬開催。
18（土）●神宮の早慶戦であふれた客が警官隊と乱闘。
19（日）●石原莞爾・永田鉄山・東条英機・板垣征四郎ら陸軍中堅将校、「二夕会」を結成。
20（月）●岐阜県船津町で大火。町の三割、六二〇戸焼失。
21（火）●米・フォックス社、徳川家達の英語演説を撮影。
22（水）●東鉄、省線全駅調査を六年ぶりに実施。乗降客数第一位は新宿駅で九万人余。
23（木）●中央気象台、関東に初の雷予報を発し的中。
24（金）●日本人道会が捨てられたペットの収容施設を鎌倉に設置、避妊手術も行う、と新聞に。
25（土）●警視庁、「風紀の乱れ」を理由に、東京最大のダンスホール「赤坂舞踊場」を営業停止。
26（日）●高すぎる・長すぎると不評の歌舞伎座が、時間短縮と大幅値下げを試行し大人気。
27（月）●シカゴ穀物市場の小麦相場、一九一五年以来の安値つける。
28（火）●ニューヨークで、米映画史上初の総天然色トーキー、「オン・ウィズ・ザ・ショー」封切。
29（水）●樺太の恵須取町に山火事が延焼、町が全滅。
30（木）●三土蔵相、財界代表に「金解禁せず」と言明。
31（金）●溝口健二監督「東京行進曲」封切。

「現場」を歩く

梅田

本格的ターミナル・デパート、阪急開店から六九年目の"カレーの味"

山本徹美

▲阪急・梅田駅前の阪急百貨店。7階には宝塚グッズを集めた売り場もある。 但馬一憲

昭和四年四月一五日、大阪・梅田に阪急百貨店が開店した。鉄骨鉄筋コンクリート造りで地上八階・地下二階。うち一階は商品を陳列せず、電車のプラットホームと乗車券売り場など鉄道駅の機能のみ。この形態は、わが国のみならず、世界的にも初めてだった。本格的ターミナル・デパートの誕生である。同社・小林一三社長が経営方針を述べている。

「百貨店経営の動機は、御来客の便益に供するということが第一の理由であった。（中略）商売というものは、儲けなくてもよいと度胸をきめて勉強すれば儲かるもので、幸い今日では百貨店も立派に利益を上げている。私はこの式で食堂中心の百貨店を経営するつもりである」（「阪急社報」昭和四年一〇月七日号）

同店舗の延べ床総面積は、一万六〇五平方メートル。七階（約六六八平方メートル）と八階（約六七一平方メートル）が食堂にあてられ、小林社長の命により、一皿二五銭でコーヒーつきのライスカレーがメニューに。社長の思惑どおり食堂は大盛況。なにしろ一日平均二万五〇〇〇人が利用、日曜日には六万五〇〇〇人が押しかけた。人気はカレーで、常時一万三〇〇〇食分が出た。

阪急・梅田駅の利用客は当時で一日約一二万人あったと言われ、その乗降客の何割かの人の流れはまず百貨店の上階へ向かい、続いて下の階へ。「シャワー効果」とも噴水効果とも呼ばれ、以後、多くの店舗が「食堂は上階」を模倣する。

"経営の神様"のセンス

阪急百貨店を訪ねてみる。店舗はその後増築を重ね、昭和四年建造を第一期として昭和四七年に第八期ビルが完成。現在の総販売面積は五万八九五五平方メートル。

八階食堂街は平成七年に改装されたが、「大食堂」（旧食堂）の内装には陶器タイルを貼った柱や天井のレリーフなど、昭和四年当時の姿を残してある。

阪急百貨店提供

▲開業当時の8階の食堂。7階の食堂と合わせて、1日に米が23石、牛が10頭、ソース2石が消費された。

大食堂でカレーライスの食券を買う。消費税こみで七五〇円。食券前売制度の導入もここが本邦初だった。かつては七〇〇席、二〇〇〇人を収容したフロアだが、面積は約六〇平方メートルふえ、一一〇〇席に。食堂部副参与・兵藤利男氏（五三）は、

「カレーのレシピは六九年間まったく変わらず、七斗鍋で三日間じっくり煮こむのも同じです。一日に一五〇〇皿前後オーダーがあり、根強い人気があります」

と言う。老夫婦が孫を同伴、一緒にカレーを食べている姿を見受けた。

阪急・梅田駅の乗降客は現在、平日平均約六五万人。同百貨店利用客は一五万～一八万人。食堂利用客数は平均三〇〇〇人で、売り上げは全体の二パーセントたらず。客のターミナルデパートに来る目的は食事から、衣料、雑貨、食料品の調達へとシフトしている。

食事を終えて店外へ。カレーの味覚はまだ舌に残っていて、また食べたい衝動に。世の中は変わってもカレーは不変。阪急ビル群を仰ぎつつ、私は経営の神様のセンスの一端を味わった思いである。

朝日新聞社

▲拓務省新設（6月10日）植民地開発と実効支配の必要が増してきたため、急ぎ発足。朝鮮・台湾総督府、関東・樺太・南洋各庁の事務、満鉄・東洋拓殖の事業の監督などを業務とした。

◀天皇と乗組員の記念写真（6月2日）大阪・神戸への巡幸の途次、戦艦「長門」艦上で撮影。将官だけの予定が、天皇の「水兵はどうした」のひとことで、約1400人全員が勢ぞろいすることになった。

▼英国で5年ぶり労働党内閣（6月5日）保守党を僅差で破り、政権奪取。マクドナルド（左から二人目）が首相復帰、初の女性大臣採用など期待されたが、金融危機に際し労働者の要求にこたえられず総辞職した。

◀北海道・駒ケ岳が大爆発（6月17日）前夜から活動を始め、午前10時頃に大噴火。火山弾や溶岩流が付近を襲って、2900戸余が被害を受け一人が死亡した。写真は、火山灰に埋もれた函館発電所。

「国際写真情報」国際フォト

◀新島でクジラ大漁（6月11日）突然、伊豆諸島沿岸に大群が出現、島民数百人が総出で、3000頭のゴンドウクジラを捕獲した。総額6万円。巡査初任給が46円の頃だった。

朝日新聞社

▲孫文の遺霊、鎮護（6月1日）北伐完成を記念し、「中国革命の父」の霊を、北京の碧雲寺から南京・紫金山の中山陵（写真）に移した。犬養毅、頭山満が国賓待遇で出席した。

昭和4年6月

1（土）●徳永直「太陽のない町」、「戦旗」に連載開始。
2（日）●全国八局結び、初のラジオリレー放送実施。
3（月）●日独伊、中国国民政府を正式に承認。
4（火）●東京で蝦蟇の膏と称しワセリン販売の男逮捕。
5（水）●紙幣印刷ミスをタネに日銀総裁恐喝の男検挙。
6（木）●兵庫県田鶴野村の玄武洞入り口部分が二三〇〇平方メートルにわたって崩落。
7（金）●町議に当選した玉川電鉄従業員が解雇される。
●東京の児童の体格は全国平均を身長・体重で上回るが、胸囲で下回る、と新聞に。
8（土）●中国・南京で全国反日会臨時代表大会開催。
9（日）●三陸沿岸でオットセイ数百頭密漁の三人逮捕。
10（月）●植民地事務の統轄機関として拓務省を新設。
11（火）●伊豆諸島に鯨の大群、新島で三〇〇〇頭捕獲。
12（水）●輸入トーキー「ワイルド・パーティー」、検閲で一二〇メートルカットされる。
13（木）●民政党、山梨半造朝鮮総督の収賄・詐欺疑惑を公表（8月17日、山梨総督更迭）。
14（金）●新潟県三条町での春期競馬会に、日本初の女性騎手・北沢きくのが出場。
15（土）●東京に「飛行館」開館。六階建て、航空資料展示。
16（日）●信濃山岳会、急増する一般登山者向けの「北アルプス登山モデルコース」を発表。
●中央線、立川までの電化完成、電車運転延長。
17（月）●前日来活動の北海道・駒ケ岳が大爆発。
18（火）●朝鮮で渇水深刻化、二三時間断水の釜山で女性百余人が府庁に押しかける。
19（水）●東京の赤痢患者が前年比五割増の二五八一人。
20（木）●東京・新宿で、サーカスのオートバイ曲乗り師が墜落、巻き添えで観客三人も重傷。
21（金）●日本航空輸送、東京－大連間郵便飛行開始。
22（土）●新潟市で、蚊を退治するため市内の堀に鮭の稚魚一〇〇〇尾を放流、と新聞に。
23（日）●富士山麓電鉄（現・富士急行）開通式挙行。
24（月）●京阪神で戦時生産などの国家総動員演習開始。
25（火）●日本初の高層駐車場「丸の内ガラーヂ」開業。
26（水）●長崎県松島炭坑で海水流入事故。四二人絶望。
27（木）●鳩山一郎、サマータイム七月実施を提案。
28（金）●田中首相、天皇に張作霖爆殺事件処置につき違約をただされ辞意表明（7月2日、総辞職）。
29（土）●奈良県郡山町の金魚、米に続き英への輸出が決まり、輸送法を研究中、と新聞に。
30（日）●東京の映画館・邦楽座、トーキー設備完成し楽士解雇と発表（争議に発展）。

ベストセラー
プロレタリア文学の傑作！『蟹工船』と『太陽のない街』

昭和三年三月一五日、そして翌四年四月一六日の共産党員の一斉検挙という事態に直面して、日本プロレタリア作家連盟はこの年、戦旗社出版から、小林多喜二の『蟹工船』や徳永直の『太陽のない街』など、いわゆるプロレタリア文学の代表作を刊行した。その宣言に曰く「同志諸君！　わが労働者階級の成長——三・一五および四・一六のもたらした未曽有の苦痛のなかに起ち上って来たわが労働者農民の階級的成長は、我々に向って、日本プロレタリア文学の階級的出版を促すこと日ましに急切となった」と。そして刊行されたのが、右記二冊を含む「日本プロレタリア作家叢書」だった。

『蟹工船』には、北方の洋上で働く蟹工船の船員たちの階級闘争を描いた表題作のほか、大弾圧事件として知られる日を題材にした「一九二八年三月十五日」が収録されていたが、小林多喜二が大いに注目されるにいたり、結果的に当局による多喜二の致命的な拷問を招いた作品でもあった。

また徳永直の『太陽のない街』は、現実に進行中の印刷会社における労働争議がテーマになっており、後書きの代わりに次のような文が載せられていた。「散在せる旧争議団員、旧評議会二十万の同志に詫びる！　モデルが凡て現存者であるために、本名であったりなかったり、また事実が幾分相違したりしてゐる。筆者が素人な為に、充分に現はし得ないが、第二部は更に努力をしてみるから勘弁して戴きたい」。

同じ年、安西冬衛の詩集『軍艦茉莉』が刊行された。「てふてふが一匹韃靼海峡を渡って行った」というあまりにも有名な詩を含むこの詩集の表紙には、次のように記されていた。「安西冬衛氏はアジアのクラシックな精神をアジア人の耳で聞いてゐる。ヨオロッパ人が神秘といふ形容詞で碌に目もくれなかつた、個の文字にも、氏は無限のイマジネエシオンを感応する」と。まさにそのとおりの、想像力を刺激してやまない詩集だった。

◀『蟹工船』(戦旗社、70銭)
日本近代文学館提供(4点とも)

▲『太陽のない街』(戦旗社、1円)
▶『太陽のない街』に挿入された挿絵(目黒生画)

現代の芸術と批評叢書 2
詩集 軍艦茉莉 安西冬衛著
厚生閣書店版
▶『軍艦茉莉』(厚生閣書店、一円)

スターと名場面
“股旅もの”の原型となった大河内傳次郎「沓掛時次郎」

この年、大河内傳次郎主演の映画「沓掛時次郎」(辻吉朗監督)が公開された。いわゆる“股旅もの”の原型となった作品と目されているが、それは大河内傳次郎というスターの存在によるところが大きい。旅から旅への無宿者の孤独感を漂わせた彼の演技は、「あっしゃァ旅人でござんす。一宿一飯の恩があるので、怨みもつらみもねえおめえさんに敵対する、信州沓掛の時次郎というくだらねえ者でござんす」という台詞(といっても字幕だが)を自然のものにした。

またこの年、小津安二郎は、コミカルなタッチの現代劇「大学は出たけれど」を撮っている。大学を出てプライドだけは高い青年が、故郷から出てきた母や恋人に、就職できたことをよそおうところからこの物語は始まる。田中絹代が可憐な演技を見せて、注目された。

また洋画では、SF映画「メトロポリス」(フリッツ・ラング監督)が公開され大評判となった。二〇二六年の未来都市を舞台に、地下工場や人造人間を画面に登場させた、上映時間二時間以上におよぶSF大作だった。

この年、ほかに次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者。
「浪人街第二話」(南光明)／「大都会・労働篇」(鈴木傳明)

マツダ映画社提供(3点とも)
▲「沓掛時次郎」では、大河内傳次郎と酒井米子(右)という2大スターが顔を合わせた。

▲「大学は出たけれど」の主役・高田稔(左)と田中絹代(右)。

▶「メトロポリス」では、未来都市の地下工場とそこで働く労働者が、リアルに描き出された。

モノ語り'29
「さくらフヰルム」「クレパス」「パインミシン」「サントリー白札」——国産技術の花開く！

▶国産ミシン参上！　ミシンが一般家庭用ではなかったこの頃は、外国製品のシンガーミシンが圧倒的なシェアを占めていた。これに対抗して、国産ミシン「パイン100種30型」を開発し販売に踏み切ったのが、パインミシン裁縫機械製作所(現・蛇の目ミシン工業)である。シンガーミシンより小型だったが、価格は165円と高価だった。「パインミシン」の名は、開発を試みた飛松と亀松の二人の姓の松＝パインに由来している。

▲国産フィルムの優れもの　当時最もポピュラーだったカメラ「ベストポケット・コダック」、通称、“ベス単”に装填できるロールフィルム「さくらフヰルム」が、小西六本店(現・コニカ)から発売され、その優れた品質で人気を呼んだ。2種類あって、どちらもブリキ缶入り。ベスト判(4センチ幅)が、8枚撮りで50銭。ブローニー判が、6枚撮りで55銭だった。

◀クレパスが本格的に使われた　桜商会(現・サクラクレパス)は大正14年に「クレパス」を開発したが、材料に油脂類を使用していたため寒暖の影響を受けやすく、「硬い・夏用」「軟らかい・冬用」の2種類を製造していた。それが、オールシーズンタイプのものに改良されたのが昭和3年で、翌昭和4年、年間5万ダースと全国規模の市場を開拓することに成功した。価格は、8色20銭から24色60銭だった。

クレパスは自由画教育の象徴だった

クレヨンより軟らかく描きやすいクレパスは、図画教育にもかっこうの画材となったが、そもそもその開発は、“自由画教育(お手本どおりに描かせるのではなく自由に写生させるというもの)”を提唱した、山本鼎画伯の助言によるところが大きかった。

それで完成品のクレパスのパッケージには当の山本画伯がクレパスを使って書いた文字を採用し、これをセピア地に白抜きで際立たせ、そのまま商標として登録した。クレパスは、教育と一体になって開発されたのである。

▲重ね塗りの効果が大きいことも魅力だった。

▶ウイスキーがやっと大衆のものに　国産ウイスキーの製造が認可されたのが、大正13年。庶民にはまだ高級酒の印象が強かったが、この年、寿屋(現・サントリー)の「サントリー白札」が登場。720ミリリットル 4円50銭で、ウイスキー大衆化への先駆けとなった。ただし発売当時は、ウイスキーと言えばスコッチをさしたので、スコッチウイスキーを手本に作り、日本人にはなかなかなじめない味だった。

▼洒落た歯磨きセットが売り出された　この年、「旅行用ライオンデンタル・セット」が小林商店(現・ライオン)から発売された。チューブ入りの練り歯磨きと歯ブラシ、それにガラス瓶入りの水歯磨きとコップがセットされていた。パッケージ素材はアルマイト製で、価格は90銭だった。水歯磨きは赤い色をした透明のものだった。

▼ラジオ放送の技術が急速に進歩　大正14年に始まったラジオ放送は、その普及とともに送信側の技術開発を急がせた。録音技術もそのひとつで、これはNHKがこの年採用したアメリカ製の「ディクタホン録音機」。円筒の蝋管(ろうかん)に録音するもので、再生の時は吹きこみ口に耳をあてて聞く。番組内容のチェック用に約10年間使用され、録音が直接放送に用いられるきっかけを作った。

NHK放送博物館蔵　乙咩雅一

人物クローズアップ

妻木松吉(二七)

三年間で六五五件もの犯行!〝説教強盗〟の型破りの手口

昭和四年二月二三日の日没近く、北側に広大な巣鴨刑務所跡が広がる東京府下西巣鴨町(現・東池袋)の左官職・妻木松吉(二七)の家に、保険の勧誘員をよそおった一人の刑事が入っていった。玄関の次の間六畳で、うずくまったまま新聞を読んでいる小柄な男に、刑事がいかにもそれらしい口調で話しかける。

「私は火災保険のものですが、どうか加入して下さい」

「私の家では入っているから要らない」と言うのが男の返事で、同じことを刑事は二度ほど繰り返して表に出、家のまわりを固めている刑事たちに合図を送った。

その男、妻木松吉が逮捕されたのは午後六時五〇分。二年八ヵ月にわたって満都を不安と恐怖におとしいれた〝説教強盗〟は、なだれこんだ九人の刑事に取り押さえられ、無抵抗のまま縛についた。

妻木松吉は、明治三四年一二月一三日、甲府盆地に生まれた。女工をしていた母親が、身重のまま盗品故買で逮捕され、獄中で妻木を生んだという。私生児だった。出獄後、しばらくして母は結婚。しかし義父は粗暴で、幼い妻木を虐待し、猟に出る時などは、妻木を犬代わりにこき使って野山を駆けまわらせた。小学校を出ると牛乳屋へ奉公に入ったが、手癖が悪く、警察の注意人物になった。大正九年、窃盗・詐欺横領の罪で八ヵ月の刑を受け、甲府刑務所に入る。

刑期を終えた妻木は、まもなく上京。左官屋に住みこみで入り、手に職をつけて結婚。しかし、所帯を持った妻木を不運が襲う。借家を火事で焼け出され、自分は病気にかかる。そのうちに長女も生まれるで、こうしたたび重なる出費が、妻木を犯行へと走らせた。

犯行は大正一五年から昭和三年にかけて、合計六五五件におよんだ。

「お宅の戸締まりは弱い、こんなことではいけません」「犬を飼いなさい、犬は一番安心がよい」「庭が暗すぎます。玄関や裏口には外灯をつけなさい」。こうして説教をしながら金品を奪う型破りの手口に、被害者は恐怖を募らせた。加えて、妻木の犯行は用意周到だった。ねらわれたのも多くが山の手の金持ちの家で、近所とのつきあいが希薄なことなどに目をつけたのである。

▲妻木松吉が逮捕された2月23日、東京府西巣鴨の妻木の自宅前には、多くの野次馬が詰めかけた。 毎日新聞社

逮捕のきっかけは指紋だった。警視庁は、〝説教強盗〟の出現時期を昭和二年三月一六日以降と見ていたが念のためそれ以前にさかのぼって調べたところ、大正一五年一二月一六日に板橋の米屋で採取された指紋が、妻木のものと一致したのである。事件は、急転直下解決した。

しかし、この〝説教強盗〟事件については、一部にこれを権力の謀略と見る見方もある。〝説教強盗〟についての著作がある礫川全次氏は、こう語る。

「根拠として若干の傍証がありますが、昭和初年の不安定な時代、警察はあえて犯人を游がし、世間の関心をこの猟奇犯罪に向けるとともに、人々の防犯意識を高めようとしたのではないかと考えられます」

昭和五年一二月一八日、妻木に無期懲役の判決が下されたが、妻木は模範囚として二三年に仮釈放。その後、防犯の講演などをしながら永らえ、平成元年一月二九日、八七歳で没した。

▲警視庁に連行された〝説教強盗〟。逮捕された時、取り調べの係官に、「私は絶対に捕まらない自信がありました」と語ったという。 毎日新聞社

特別賞のチャップリンも欠席 第一回アカデミー賞授賞式はわずか四分二二秒で終了！

◀黄金像を前に、女優賞に輝いたジャネット・ゲイナー（右）と、監督賞を受賞したフランク・ボーゼージ（左）。

THE KOBAL COLLECTION／G.I.P.Tokyo

第一回アカデミー賞の授賞式は、一九二九年五月一六日、ハリウッドのローズベルト・ホテルで約二〇〇人の映画関係者が集まる晩餐会の席で行われた。受賞者に賞を手渡したのはアカデミー会長のダグラス・フェアバンクス（四五＝俳優）で、わずか一二部門だったこともあるが、これといったアトラクションもなく、授賞式そのものは四分二二秒で終わった。

黄金像（後年「オスカー」と命名される）を前に微笑む女優賞のジャネット・ゲイナー（二二＝写真右）は、劇場の案内係、靴屋の会計係など平凡な仕事をしながらシカゴ、フロリダ、サンフランシスコなどを渡り歩き、ハリウッドに来てからエキストラなど下積みの後、やっと西部劇の端役をつかむ。そして、二〇世紀フォックスに入社してから運が向き、一年あまりでハリウッドの女王の座についた。まさに〝シンデレラ・ガール〟だったと言っていいだろう。彼女の清純なイメージはメロドラマに向いており、当時人気のあったクララ・ボウ（二三＝〝フラッパー・ガール〟として一世を風靡）や、エキゾチックな妖艶さで人気の高かったグレタ・ガルボ（二三）などとは好対照であった。

ところで、第一回アカデミー賞の受賞部門は、全部で一二部門だった。作品賞は、第一次世界大戦で活躍するアメリカ空軍の若いパイロットを描いた「つばさ」が受賞。監督賞はパリの下町を舞台にしたラブ・ロマンス「第七天国」のフランク・ボーゼージ監督（三六）が受賞。女優賞は「第七天国」「街の天使」「サンライズ」の三作に主演したジャネット・ゲイナー、男優賞は「肉体の道」「最後の命令」に主演したドイツの名優、エミール・ヤニングス（四四）だった。ただ彼は、授賞式の日にはドイツに帰国していた。

ジャネット・ゲイナーは授賞式で感激の涙を流し、一緒に仕事をした仲間に感謝の言葉を表した。しかし後に、当時のことを思い出して「激励のために小さなグループが集まるだけのことだったのよ」とも語っている。「サーカス」で特別賞を受賞したチャールズ・チャップリン（四〇）も「少数の人間の決めた賞など、たいした名誉でもない」と授賞式には参加しなかった。

映画産業は第一次世界大戦を境に、ヨーロッパからアメリカのハリウッドにその中心を移していた。一九二六年の統計によると、全米一万五〇〇〇軒の劇場に、毎週五〇〇〇万人の観客が押しかけるという盛況が続き、映画技術も無声映画から音楽や台詞の入ったトーキーの時代へと移っていた。こうした中で、映画界の重鎮でMGM副社長兼撮影所長、ルイス・B・メイヤーの発案によって、映画芸術科学アカデミーが結成された（一九二七年）。このアカデミーは「映画芸術および科学の質を向上させる」という表向きの目的のほか、映画産業の現場を支える労働組合を牽制するねらいも含まれていたようだ。

アカデミー賞は、こうした映画の振興という大きな目的の中のひとつのイベントとして誕生したものだった。そのアカデミー賞が世界で最も有名な賞となり、授賞式がテレビで放映され、一〇億人もの人々が茶の間で楽しむ巨大なショーに変質するなどとは、当時は誰も想像していなかった。

◀作品賞の「つばさ」のポスター。後に続く航空映画の原型となった。ポスター中央は主演のクララ・ボウ。

THE KOBAL COLLECTION／G.I.P.Tokyo

◀男優賞のエミール・ヤニングスはドイツ映画界の代表的スター。「肉体の道」などに出演。

ユニフォト・プレス

Academy of Motion Picture Arts and Sciences
1928
FIRST AWARD
DISTINCTIVE ACHIEVEMENT
Emil Jannings

◀エミール・ヤニングスに与えられたアカデミー賞の賞状。

THE KOBAL COLLECTION／G.I.P.Tokyo

◀「孔雀明王像」絹本著色。生糸貿易で財をなした豪商・原富太郎（三渓）は、古美術の収集家、近代日本画のパトロンとしても知られている。原は明治三七年に井上馨から、この平安期の名品をそれまでの最高値である一万円で購入した。昭和八年に国宝に指定。

東京国立博物館提供

美の出会い

“海外流出”にストップ!「国宝保存法」が成立して神宮寺の銅鐘などを指定

昭和四年三月一七日、「国宝保存法」が衆議院で可決され、七月一日に施行された。この法律は、明治三〇年に制定された「古社寺保存法」に代わるもので、社寺に属するもの以外でも、歴史上または芸術上、価値が高いとみなされたものを、「国宝」として指定することを定めたものである。

わが国の優れた美術品に対して最初に「国宝」の指定が行われたのは、「古社寺保存法」からである。明治維新の廃仏毀釈により寺院・寺物の破壊が進められ、おびただしい量の仏画や経文、典籍などが海外に流出していた。これを憂えた東京美術学校校長・岡倉天心や東洋美術史の研究者であるフェノロサが全国的に社寺の調査を行い、それをもとに立法化されたのだった。

「古社寺保存法」では、寺院などの建造物を特別保護建造物、宝物を国宝に指定したが、個人や国所有のものは、対象とならなかった。そのため旧大名や華族らが所有する美術品は、遺産相続や経済的理由などにより、その後も流動し、海外へ流出するものが続出した。特に関東大震災後の不況期には、流出するものが多く、古社寺保存会や美術収集家たちは危機感を募らせていた。

こうした動きを受けて、この年「国宝保存法」が成立。翌五年の指定は新潟県佐渡郡、神宮寺の「銅鐘」、東大寺の「紙本墨書法華経」など、これまで同様、社寺関係のものが二一件だったが、六年には本格的に個人所有や国所有のものに対象が広がり、三井合名会社所有の「虚空蔵菩薩像」、大倉集古館所有の「木像普賢菩薩騎象像」、毛利家所有の雪舟の「山水図」、国所有の「姫路城天守」など、計九二件が指定されるにいたった。以後、昭和二五年の「文化財保護法」成立までの間に、美術工芸品五七九〇件、建造物一〇五七件が国宝となる。平成一〇年一月現在での国宝一〇四八件と比べ、驚くべき膨大な点数が指定されたのである。

国宝保存法は第二〇条に「主務大臣の許可なく国宝を輸出又は移出したる者は五年以下の懲役若は禁固又は二千円以下の罰金に処す」とあり、全体としては海外流出防止に重点をおいた内容になっている。また補助金の総予算を毎年一五万円以上、二〇万円以下とする規定もできたが、一件当たりに割りふってみるとわずかな額だった。

しかし、その後も美術品の海外流出は止まなかった。マスコミなどで話題になったのは、江戸期の代表的な美術品収集家だった若狭（福井県）小浜藩・酒井家に伝わる絵巻の名品「吉備大臣入唐絵巻」である。大正一二年六月、東京美術倶楽部で開かれた入札会で、大阪の古美術商・戸田弥七が、この平安末から鎌倉初期の名品を、一八万八九〇〇円で落札したが、同年九月一日の関東大震災の混乱などの影響もあって、日本人の買い手は現れなかった。

このあたりの事情について、美術評論家の瀬木慎一氏が解説する。

「『吉備大臣入唐絵巻』は何度も入札会に出たが、日本人の買い手がなく、たまたま来日していたボストン美術館アジア部長の富田幸次郎が、昭和七年に戸田から購入することになった。大騒ぎになったが、文化財に対する政府の認識の低さがあらわになったもので、これは日本人の意識の低さの問題です」

これを知った国宝保存会の委員で東洋美術史家の瀧精一が激怒し、富田を国賊呼ばわりする一幕もあった。これをきっかけに、昭和八年に政府はさらに「重要美術品等ノ保存ニ関スル法律」を制定、さっそく一〇二二件が指定され、その数は昭和二五年までに八二八二件に達した。

第二次世界大戦で「国宝」は甚大な被害を受け、さらに戦後の経済混乱にあって国宝所有者や社寺は管理能力を失い、多くの国宝が破壊され、もしくは海外に流出していった。こうした時代背景の中、昭和二五年になってようやく「文化財保護法」が成立。「国宝保存法」により国宝指定されたものは、すべて「重要文化財」となり、中でも学術的価値が高く、文化史的意義の特に深いものを新たに「国宝」に指定したのである。

現在、社寺を訪れると、説明書に「旧国宝」と記されているのを見かけることがある。これは、戦前の「古社寺保存法」「国宝保存法」の時期に国宝指定されたことを意味している。

▲「姫路城天守」。兵庫県姫路市。慶長13年（1608）、池田輝政により築城され、大天守が完成した。藩主家は数次変遷し、明治維新後は国の所有となっていた。「白鷺城」とも呼ばれ、日本城郭史上の粋をなす建物である。平成5年に、ユネスコの「世界遺産」に登録された。

20世紀博物館

船の科学館 東京・品川区

男の子は皆あこがれた精巧な船の模型！世界の名船一〇〇体以上が勢ぞろい

桑原茂夫

この「船の科学館」は東京臨海副都心の一角にあるので、新しくできたテーマパークと勘違いしそうだが、すでに昭和四九年夏に開館した、〝船の歴史館〟的内容も持つ博物館なのである。

▲ファンならずともその魅力に引かれてしまう模型群。手前が「ユニバーサル・アイルランド号」で、向こうに「浅間丸」や「サントス丸」などの有名な船が並んでいる。　田代真一（5点とも）

館内に入り一階のフロアでまず引きつけられてしまうのが、時代を画した名船の精巧な模型の数々である。模型は全フロア合わせて一〇〇体以上展示されているが、ここではたとえば、一九世紀なかばに貿易船として活躍した帆船、「シー・ウイッチ号」や「カティ・サーク号」（鋭く前にせり出した船首を特徴としており〝クリッパー〟と称される）がその雄姿を見せているかと思うと、昭和四年に建造され太平洋航路に就航した日本の豪華客船、「浅間丸」の優雅な姿（太平洋戦争で沈没した）や、昭和四三年に作られた世界一大きなオイルタンカー、「ユニバーサル・アイルランド号」のどっしりした船体も見られる。

しかもこれらすべての模型が、製作費に一〇〇〇万円単位のお金をかけた、精巧きわまりないものなのである。人によっては、模型を眺めるだけで十分満足させられてしまう博物館なのだ。

▲弁才船の胴体断面。弁才船は、千石船とも称された商船で、18世紀以降国内海運の主役を演じていたもの。日本海で生まれた北前船も、弁才船の一種である。

▼館の桟橋には、「宗谷」（手前）と「羊蹄丸」が係留されている。

三階の和船コーナーにも模型がたくさん並べられているが、一階とは違う雰囲気が漂っている。ひとことで言うと、木の香りがするのである。フロア中央には江戸時代に活躍した弁才船の、船体中央部の断面が実物大で再現されており、たちまち木造船の世界に投げこまれることになる。

このフロアには弁才船のほか、安宅船や関船などの軍船、将軍や大名が用いていた各種御座船、幕末の洋式帆船などがあって、日本の船の歴史的な流れがわかるようになっている。

さて、ここで野外に出る。ちょっとした桟橋があって、そこに「宗谷」と「羊蹄丸」が係留されている。

「宗谷」は、言わずと知れた南極観測船である。昭和三一年一一月に東京港を出発し、翌年一月末、氷におおわれた南極大陸に到達、観測隊員を無事上陸させた、あの船だ。南氷洋上での氷との闘いは、新聞などで刻々と伝えられる国民的関心事だった。つまり「宗谷」はまぎれもなくその当時のヒーローだったのである。

その「宗谷」に乗船できるのだから、ある世代の人にとっては、夢の世界に足を踏み入れ、手を触れてしまう、かなり刺激的な体験となるはずだ。

また「羊蹄丸」は、昭和六三年三月一三日まで青函連絡船として活躍していた船で、これも懐かしさを呼び起こすところのある船だ。さらにこの船の中には「青函ワールド」と称する、昭和三〇年一二月一五日の青森駅とその周辺を再現したコーナーがあって、人気を呼んでいる。

青函連絡船とは、こういう光景に見られる人々を乗せて海峡を往来する、生活臭の強い交通機関だったのである。

ゆっくりまわっているとたちまち数時間たってしまう、多様性に富んだ、しかも中身の濃い博物館なのであった。

▲「羊蹄丸」内にある「青函ワールド」の一部。青函連絡船のデッキから見た青森駅構内という想定だ。

◀青森駅前の再現。リンゴを売る店や海産物を売る店などが並び、青函連絡船から降り立つ人々を迎えた。

●船の科学館
東京都品川区東八潮三―一
☎〇三―五五〇〇―一一一一
新交通「ゆりかもめ」、船の科学館駅下車、徒歩二分。または臨海高速鉄道の東京テレポート駅下車、徒歩一五分
開館時間＝一〇時～一七時（土・日・祝日、夏期は一八時）
休館日＝一二月二八日～三一日
入館料＝一般共通券（本館、「宗谷」「羊蹄丸」）一〇〇〇円

永田鉄山、岡村寧次、東条英機らが結集！「満州事変」を演出、「二・二六事件」に発展

〝昭和の軍閥〟「一夕会」誕生の夜

昭和四年五月、一軒の料亭で陸軍の佐官クラスの将校たちが結成した「一夕会」は、〝昭和軍閥〟の誕生を決定づけた。陸軍の中枢を占めた彼らは一団となってことを進めたが、後に「皇道派」「統制派」に分裂。「二・二六事件」にまで発展する、激しい権力闘争を繰り返した。

「満州事変」を演出した陸軍〝横断〟の幕僚集団

昭和四年五月一九日、日曜日――。この日午後六時、東京・九段の靖国神社近くの料亭「富士見軒」に、昭和の陸軍を代表する少壮幕僚たちが参集した。歩兵第三連隊長の永田鉄山（四五）や参謀本部戦史課長の岡村寧次（四五）、陸軍省整備局動員課長の東条英機（四四）をはじめ、沼田多稼蔵、根本博、土橋勇逸ら、陸軍大学卒業のエリートたちだった。

「一夕を楽しむ」という意味から「一夕会」と名づけられたこの会合では、「陸軍の人事を刷新して、諸政策を強く推し進めること」「荒木貞夫（五一＝陸軍大学校長）、真崎甚三郎（五二＝第八師団長）、林銑十郎（五三＝教育総監部本部長）の三将軍を護りたてながら、正しい陸軍を建て直すこと」、そして五日前に停職が決まった、張作霖爆殺事件の首謀者、元関東軍高級参謀の河本大作（四七）に続けと、「満蒙（中国東北部と内モンゴル）問題の解決をめざす」ことが申し合わされた。

また第一回会合には参加しなかったが、「一夕会」には歩兵第一〇連隊長の小畑敏四郎（四四）、関東軍高級参謀の板垣征四郎（四四）、歩兵第三〇連隊長の土肥原賢二（四五）、駐オーストリア武官の山下奉文（四三）、参謀本部作戦課部員の鈴木貞一（四〇）、関東軍作戦主任参謀の石原莞爾（四〇）ら、そうそうたるメンバーが含まれていた。まさに〝昭和軍閥〟と言うべき集団だったのである。

この昭和軍閥形成の最初の契機は、大正一〇年一〇月二七日、ドイツの保養地、

▲「一夕会」創設の中心人物、永田鉄山。後に「皇道派」の青年将校から「統制派」の中心人物と目され、昭和一〇年、刺殺される。

▶「一夕会」ができる最初の契機は、大正一〇年一〇月二七日、永田、岡村、小畑によるドイツの〝バーデン・バーデンの密約〟にあった。写真は大正一〇年、ウィーンでの永田。

バーデン・バーデンに集まったスイス公使館付武官だった永田とロシア大使館付武官の小畑、欧州出張旅行中の岡村が、「派閥の解消、人事刷新、軍制改革、総動員体制」について話し合った〝バーデン・バーデンの密約〟にあった。三人の帰国後も会合が重ねられ、陸士一五期から一八期の間で会員を募り、東条や河本らを含んだ「二葉会」がまず形成されたのである。

▲永田、岡村と並び、陸士16期の三羽烏と言われた小畑敏四郎（右から3人目）。後には「皇道派」の道を歩み、永田と対立する。

▶「満蒙問題の解決」は「一夕会」の重要な課題であり、「満州事変」にも多くの会員が関与した。写真は、満州（中国東北部）の視察をする関東軍参謀長・東条英機。

それまで陸軍を牛耳っていた長州閥を排除するとともに、第一次世界大戦の教訓から、総力戦体制を確立することが目的だった。また大正デモクラシーの隆盛や中国での排日運動の高まりなども、少壮幕僚をして結束を強めさせた。

この「二葉会」と、石原ら陸士二〇期から二五期の間に形成されていた「無名会」とが大同団結することによって生まれたのが「一夕会」だったのである。

そして「一夕会」のメンバーは、省部（陸軍省、参謀本部）など陸軍の中枢を占めつつ、会の意図するところを次々と実現していった。

▲第11軍司令官当時の岡村寧次。永田と陸士の同期。

「一夕会」主要メンバー

毎日新聞社

▲土肥原賢二（右から3人目）。昭和6年奉天特務機関長となり、「満州事変」、「満州国」建国で暗躍、昭和10年、土肥原・秦徳純協定を結ぶ。昭和23年12月23日、絞首刑。

毎日新聞社

▲東条英機。関東軍憲兵隊司令官、関東軍参謀長などを歴任。昭和16年組閣、23年絞首刑。

▶河本大作。大正一五年関東軍高級参謀となる。満州武力制圧を唱え、昭和三年張作霖を爆殺する。

毎日新聞社

▲山下奉文（手前）。航空総監などを経て、昭和16年、第25軍司令官となり、「マレーの虎」として勇名をはせた。昭和21年、マニラで処刑される。

▼板垣征四郎。関東軍参謀として、石原莞爾とともに「満州事変」を計画、実行した。昭和23年、A級戦犯として刑死。

毎日新聞社

昭和六年九月一八日、「満蒙問題の解決」に向けて大きく前進する。「満州事変」の勃発である。満州で計画を推し進めた、関東軍高級参謀の板垣と同作戦主任参謀の石原。謀略によって天津で暴動を起こし、清朝最後の皇帝・溥儀を連れ出した奉天特務機関長の土肥原。そして、奉天城攻撃に使われた二四センチ榴弾砲の、国内からの移送を許可した軍務局軍事課長の永田。「満州事変」は「一夕会」会員の連係プレーによって演出されたのである。

さらに昭和六年の一二月一三日には、荒木貞夫が陸軍大臣に、翌七年一月には真崎甚三郎が参謀本部次長に就任。同五月には林銑十郎が教育総監に就任し、「荒木、真崎、林路線」も確立された。しかし、この過程で「一夕会」は分裂、自然消滅していくことになる。

「二・二六事件」に爆発した「皇道派」「統制派」の確執

分裂のきっかけには、「満州事変」をはさんで起こった昭和六年の「三月事件」、同年の「一〇月事件」という、二つのクーデター未遂事件があった。相次ぐクーデター失敗を見た永田らは、〝統制〟ある全陸軍の合法的活動による軍事国家体制の実現という方針へ、大きく傾いていく。一方で、幕僚主導の「国家改造」に限界を感じた尉官クラスの隊付将校たちは、荒木、真崎を旗印に結束を固めていった。後に「統制派」と「皇道派」と呼ばれる二大派閥の発生である。そして陸軍の中枢を自派で固めた荒木陸相の〝皇道派人事〟によって、派閥抗争は激化していく。

また幕僚間にも、「対ソ派＝皇道派」と「総動員派＝統制派」という対立が鮮明になってくる。昭和八年六月の省部首脳会議席上では、「対ソ戦備優先」を唱える参謀本部第三部長の小畑と、日満華経済ブロック形成による「総動員体制の優先」を主張する同第二部長の永田とが対立。〝バーデン・バーデンの盟友〟の間に、決定的な亀裂が入ったのだ。

しかし昭和九年一月に荒木が病気辞任すると、軍務局長に就任した永田と後任の林陸相は真崎、荒木派の一掃をもくろみ、昭和一〇年七月真崎を教育総監から更迭する。この人事は皇道派の憤激を買い、その思想的柱だった民間右翼・西田税らは、「各種の政治策動を為しつつある統制攪乱の中心たる永田を先ず処断するに非ざれば他の一切の人事は価値なし況んや今次の人事の原案が永田中心にて作られつつあるに於いてをや」と論難した。そして八月一二日、皇道派の将校、相沢三郎によって永田は刺殺される。事件の前夜、永田は「自己擁護の私心に発する結束は派閥なり、派閥は一個のみ存し他に派閥なし」と書き残していた。しかし永田自身も、青年将校から見れば、統制派のリーダー、〝幕僚ファッショ〟の首魁だったのである。

流血の惨事まで生んだ派閥が陸軍内に生まれた要因について、茨城大学名誉教授の大江志乃夫氏は次のように語る。

「日本の軍隊の戦略・戦術は、天皇の勅定を経た『軍令』によって定められていました。そのため日本の将校団には、軍事理論、兵学理論を研究する余地がなかったのです。その結果、欧米のような〝暴力管理〟の専門職集団ではなく、軍事行政官の集まりになり、必然的に派閥が形成されざるをえなかったのです」

そして昭和一一年二月二六日、「二・二六事件」勃発で、「皇軍相撃つ」危機的状況を迎えたのだった。

7~8月

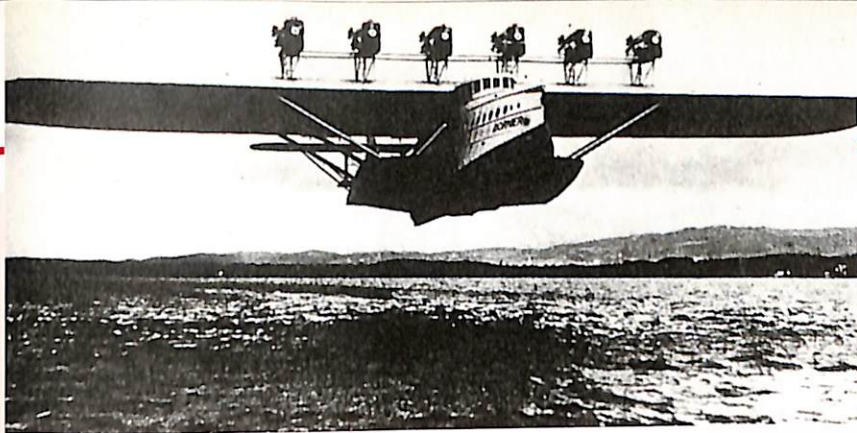
フォト＋日録で再現する365日

▲**世界最大の飛行艇誕生（7月27日）**エンジン12基の独製「ドルニエ Dox」が試験飛行。10月には169人を乗せ約1時間飛んだが、予定の性能が出ず、旅客機には使われなかった。

▶**中ソ、一触即発（7月）**東支鉄道問題の外交交渉が失敗。中ソとも国境付近に軍隊を集結、中国東北部は戦雲におおわれた。写真は、満州里の日本領事館に避難した日本人。

毎日新聞社

▼**不戦条約、やっと発効（7月24日）**「人民の名において」との文言の扱いでもめ、出遅れていた日本が批准。写真中央は、米・ホワイトハウスで発効を宣言するフーバー米大統領。

「イリュストラシオン」

共同通信社

▼**「世紀の恋」熱々（7月29日）**中上川あき（31）が人気オペラ歌手・藤原義江（30）をお見舞い。前年、2児を残して離婚、8月に藤原を慕ってミラノへ飛び、話題となっていた。

「イリュストラシオン」

▼**レニングラードで反中国デモ（7月）**5月にハルビンのソ連領事館襲撃、11日には東支鉄道電信局を奪取した中国・張学良軍に、怒り爆発。17日、ソ連はついに国交断絶を通告した。

▶**カジノ・フォーリー結成（7月10日）**エノケンこと榎本健一（24）のほか、武智豊子らが東京・浅草で旗揚げ。ジャズ、レビュー、ボードビルをミックスしたドタバタ喜劇が受けた。

昭和4年7月

1（月）●工場法改正。女性と一六歳未満の深夜業禁止。
2（火）●浜口内閣成立（9日、政策発表。金解禁、緊縮財政など。前内閣の対中国強圧政策を批判）。
3（水）●警視庁、親分の強制で押し売りをする少年団六〇〇人上京との情報に、厳重取締りを通達。
4（木）●関東軍参謀・石原莞爾が長春で講演し、日米開戦を予言する「戦争史大観」を発表。
5（金）●閣議、新規事業の全面見合わせ方針を決定。
●慶大は一部を神奈川県日吉村へ移転と新聞に。
6（土）●神流川引水問題で、群馬・埼玉の二村民が乱闘。
7（日）●岩手県松尾村民の八割がトラホームと新聞に。
8（月）●井上準之助蔵相、会見で「好況時の夢を追うな」と、主婦を相手に節約呼びかけ。
9（火）●金解禁の政治課題化で、株式・商品相場暴落。
10（水）●エノケンらの「カジノ・フォーリー」が発足。
11（木）●張学良軍、中ソ共同経営の東支鉄道回収強行。
12（金）●アメリカで無着陸飛行新記録。空中補給を受けながら二四〇時間飛び続ける。
13（土）●陸軍、被服協会を設立。非常時に民間服が軍服となるように、仕立て方の統一をめざす。
14（日）●ソ連、張学良の東支鉄道回収に対し、中ソ国境を封鎖（17日、国交断絶を宣言）。
15（月）●日本航空輸送、東京―大阪―福岡間で定期旅客飛行を開始。
16（火）●長野県岡谷の製糸工場女工二人、工場生活の悲惨さを遺書に残して心中。
17（水）●朝鮮共産党事件公判で、全員が公訴事実否認。
18（木）●八重山諸島に暴風。石垣島では二一七棟全壊。
19（金）●東京の職業紹介所で「求人開拓デー」を開始。
20（土）●中ソ国境の満州里で、日本人引揚げ開始。
21（日）●中国・青島の日系紡績六社、争議に対抗し休業。
22（月）●千葉県で小学六年生が口論のすえ友人を刺殺。
●総武線で、四三人乗りガソリン動車の試運転。
23（火）●初の純国産飛行船、霞ケ浦で進空式。
24（水）●不戦条約発効。英米、建艦の削減・延期発表。
25（木）●築地小劇場、地主の明け渡し請求で閉場。
26（金）●熊本市の水前寺公園に熊本動物園が開園。
27（土）●「捕虜の待遇に関するジュネーブ条約」成立。
28（日）●釧路のマグロ漁が空前の豊漁、一日で五六〇トンの水揚げ新記録。
29（月）●閣議、経費節減策を決定。本年度予算を組み替え、五㌫、九一〇〇万円を削減。
30（火）●財政再建策に女給雇用税など導入と東京市長。
31（水）●米相場は大正一一年以来の大暴落、と新聞に。

証言・あの日この日

浜口雄幸（59）

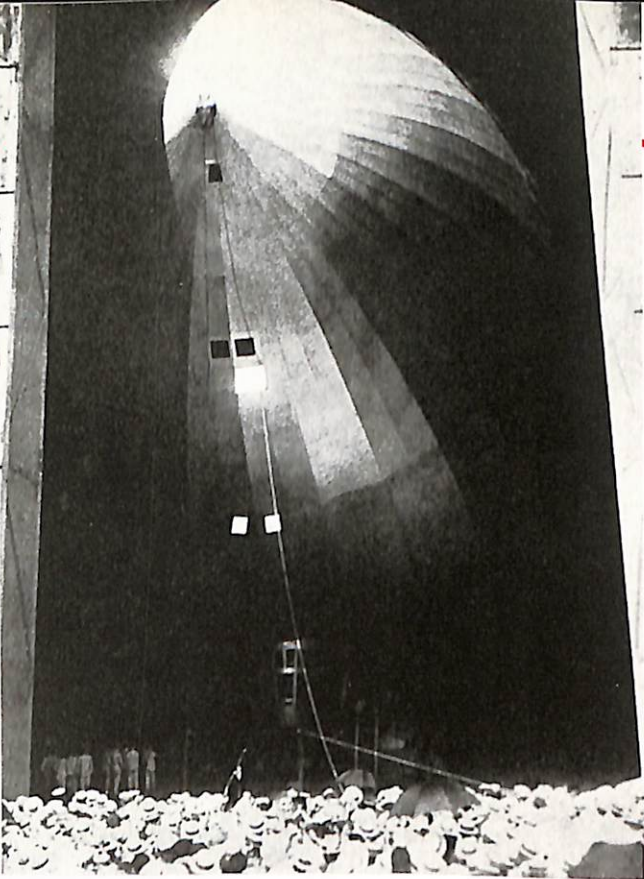
6月28日（金）〈満州某重大事件愈々重大化ス。首相、陸相相次テ参内後、首相各閣僚ヲ各別ニ官邸ニ招集シ密議ス、宮中ノ不首尾ヲ伝ヘテ各員ノ決意ヲ促カシタルモノト伝ヘラル〉（浜口雄幸「浜口雄幸日記」）

この頃、政治問題化していた「満州某重大事件」（張作霖爆殺事件）が、いよいよクライマックスを迎えようとしていた。前日、田中義一首相は、事件の責任者の行政処分に関する件で天皇に拝謁したが、その時、前に責任者を軍法会議にかけると上奏した件を持ち出されて、その約束違反を厳しく叱責されたばかりだった。田中は、この日、あらためて天皇に拝謁を申し出たが許されなかった。困惑した田中は、責任を痛感して総辞職を決意せざるをえなかった。その結果、野党・民政党総裁の浜口雄幸を首班とする内閣が誕生する。（山崎行太郎）

▲**「ツェッペリン伯号」飛来（8月19日）**世界一周をめざす巨大飛行船が、ドイツから1万1000キロを一気に飛んで霞ケ浦に到着。途中、東京上空に全長236メートルの巨体を見せ、市民を熱狂させた。

▼**朝鮮総督に斎藤実再任（8月17日）**釜山の米取引所開設をめぐる贈収賄事件の中心人物で前任者の山梨半造が、浜口内閣の求めに応じやっと辞任。急遽、大正8年から8年つとめた経験と実績が買われた。70歳。

国際写真情報／国際フォト

▲**ハーグで対独賠償本会議（8月6日）**31日まで開催され、第1次世界大戦敗戦国・ドイツの旧連合国に対する新しい賠償額、ヤング案が決定。あわせて、ラインラントからの英・仏・ベルギー撤退が決まった。

▼**前畑秀子（15）、ハワイで優勝（8月7日）**ホノルルの、全米女子水泳選手権大会100メートル平泳ぎに出場。1分30秒2の米国新記録を達成、大器の片鱗を見せた。写真は歓迎会で（左から二人目）。

毎日新聞社

▼**「現代の女性美」決定（8月7日）**「アサヒグラフ」が募集した美人コンクールの入選者が発表された。写真は最高点の斎藤史子（21）。審査員は洋画家・藤島武二、民俗学者・柳田国男、日本画家・鏑木清方ら。

朝日新聞社

昭和4年8月

1（木）●月刊マンガ誌「マンガ・マン」創刊。
●パリで第一回放射線療法世界大会開催。
2（金）●代替戦艦建造解禁を二年後に控え、解禁後も新艦は建造しない方向で日米英の歩調そろう。
3（土）●銚子で、盗んだ金で遊廓遊びの少年二人逮捕。
4（日）●富士登山急増し、すでに二三万人。二割は女性。
5（月）●北海道・歌志内炭坑でガス爆発。七一人死亡。
6（火）●落語家の放送出演拒否が続く中、音曲の富士松ぎん蝶が出演し、東京落語協会が除名。
7（水）●この日付の「アサヒグラフ」、美人コンクール「現代の女性美」の八人を発表。
8（木）●トーキー化で解雇された東京・武蔵野館の楽士七人、警視庁に調停を依頼。
9（金）●警視庁、市内三ヵ所に試験的に横断歩道設置。
10（土）●名古屋無線局、ロンドンからの受信業務開始。
11（日）●メキシコで労働法規公布、八時間労働など。
12（月）●東京で地下鉄工事現場が豪雨で崩落。四回目。
13（火）●甲子園で全国中等学校野球大会開幕。ファン急増で、アルプススタンドを新設。
14（水）●生命保険協会、航空機事故の死者に対する保険金支払いにつき検討を開始。
15（木）●汎太平洋労働組合会議開催。山本懸蔵ら出席。
16（金）●福岡県で村八分受けた男が四人を槍で刺傷。
17（土）●大阪市でカフェーの女給が組合結成。五〇〇人が参加、地位向上などめざす。
18（日）●第一回全日本学生庭球選手権大会開催。
19（月）●独飛行船「ツェッペリン伯号」、霞ケ浦に飛来。
20（火）●上半期小作争議は前年比五割増の一〇一四件。
21（水）●鉄道省、「ツェッペリン伯号」見送り客のため、この夜から臨時便運行。
22（木）●織本貞代ら、東京・亀戸に「労働女塾」を開設。
23（金）●エルサレムでアラブ人とユダヤ人が衝突（「嘆きの壁」事件。パレスチナ全土に拡大）。
24（土）●速度向上めぐる東京市電争議、当局が譲歩。
25（日）●岡山県で流行の「眠り病」の患者が一一三人に。
26（月）●大船―鎌倉間に関東初の自動車専用道路開通。
27（火）●ラジオで求人求職の「職業ニュース」放送開始。
28（水）●浜口首相、緊縮政策をラジオで放送。全国各戸に「全国民に訴ふ」を配布。
29（木）●勲章疑獄発覚。大礼の勲章製作めぐる詐欺。
30（金）●「東京朝日」に長者番付。財閥系が上位独占、一位年収二八一万円、一〇位でも一三七万円。
31（土）●劇団・築地小劇場、再出発第一回作品「吼えろ支那」（滝沢修・杉村春子ら出演）を上演。

共同通信社

▲**コレラ予防に躍起（9月5日）** 前日までに、大阪で35人の患者が発生。警視庁では関西地方への旅行の自粛を要請、東京への侵入に備え、細菌検査所でワクチンの製造を始めた。

▶**特急列車に「富士」「さくら」（9月15日）** 不況下の減収挽回のため、国民に親近感を持ってもらおうと鉄道省が愛称を公募、1等の「富士」、3等の「さくら」が選ばれた。写真は、マークをつけた「富士」の展望車。

「国際写真情報」／国際フォト

▲**藤田嗣治、17年ぶり帰国（9月23日）** サロン・ドートンヌ審査員になるなど、パリ画壇での高い評価を土産に凱旋。42歳。左は仏人のゆき子夫人。

▶**カフェー、バー受難（9月）** 増長する「エロサービス」に各道府県警察が深夜営業、学生の出入り禁止など厳しい取締り。写真は、大阪で開かれた規制緩和を訴える擁護大会。

毎日新聞社

▲**「浅間丸」竣工（9月15日）** 1万6947トン、旅客定員839人。欧米の客船に対抗すべく技術の粋を集めて建造された。翌月、サンフランシスコへ出港。半年後、姉妹船の「秩父丸」と「竜田丸」も就航、太平洋航路は豪華客船時代を迎えた。

▼**英軍、ラインラント撤退（9月14日）** ハーグ賠償会議の決定により、引揚げ開始。第1次大戦後に非武装化、国際連盟管理下にあったドイツ北西部が、順次解放された。

昭和4年9月

1（日）●内務省、初の全国失業状況調査。
2（月）●東京市内三〇〇〇の料理店代表、導入予定の女給雇用税に反対して市役所に陳情。
●石川県人力車組合（三二〇台）、収入減のため税（年額四円）軽減をと県に請願。
3（火）●東京市建設の独身会社員用アパートが落成。
4（水）●全国反戦同盟員、東京・銀座で反戦デモを敢行。
5（木）●ブリアン仏外相、国際連盟総会で「ヨーロッパ連邦」設立を提案。
6（金）●小津安二郎監督「大学は出たけれど」封切。
7（土）●カフェー、バーの取締り要綱を制定。
8（日）●千葉県の柏ゴルフ場開場。初のパブリック。
9（月）●大卒者の就職率はわずかに一二％、と新聞に。
10（火）●国体観念明徴のため中央教化団体連合会設立。
●警視庁、賭け禁止など麻雀規制を通達。
11（水）●勲章疑獄で前賞勲局総裁・天岡直嘉を起訴。
12（木）●東京高等工商学校を同盟退学した生徒六〇〇人のため、武蔵高等工科学校に設立認可。
13（金）●東京市、人口流入防止など失業対策を協議。
14（土）●銀座のカフェーに「学生服お断り」の看板。
15（日）●東京―下関間特急を「富士」「さくら」と命名。
16（月）●全国町村長大会、義務教育国庫負担増を決議。
17（火）●郵貯残高が二〇億円突破。一年で一五％増。
18（水）●群馬県の上州絹糸で争議。組合加入の自由、外出の自由、食事改善など要求。
19（木）●開業二ヵ月の日本航空輸送の旅客激減、一一日運行開始の大連線はまだ一人、と新聞に。
20（金）●井上蔵相著『金解禁』初版二〇万部と新聞広告。
21（土）●「文藝春秋」「朝日」誌が猥褻で発禁、と新聞に。
●荒畑寒村、東京・新宿のホテルで自殺未遂。
22（日）●ベルリンで共産党員とナチ党員が銃撃戦。
23（月）●パリ在住の藤田嗣治、一七年ぶりに一時帰国。
24（火）●東京中学校長会議、生徒の節約指導を決める。
25（水）●大阪市営バス（銀バス）、中心部乗り入れ開始。民営の「青バス」と「大阪バス戦争」始まる。
●小林多喜二『蟹工船』が発禁処分となる。
26（木）●前鉄相・小川平吉、私鉄疑獄の中心として起訴。
27（金）●東京外国語学校、世界で二台のオシログラフを設置、披露をかねて実験を行う。
28（土）●警視庁不良係、浅草で「サボ学生」一斉検挙。
29（日）●福島県翁島村で、前年アフリカで死去した野口英世の記念碑除幕式。
30（月）●第三皇女・孝宮和子（鷹司和子）誕生。東京中央放送局が男児出産と誤報。

▶**盛り上がる早慶戦（10月15日）** 六大学野球秋のリーグ戦は、春同様、また強豪激突。1勝1敗で迎えた決勝戦で早大が水原茂を乱打、雪辱をはたした。写真は切符を求めるファンで大混雑の神宮球場。

◀**官吏減俸、取りやめ（10月22日）** 浜口内閣が緊縮財政の一環として1割減額を打ち出したが、不景気を助長すると悪評紛々。写真は撤回の閣議後、記者と話す井上蔵相。

「国際写真情報」／国際フォト

毎日新聞社

▲**電灯発明50周年祝賀会（10月21日）** 記念すべきエジソンのディアボーンの研究室で開催、フーバー大統領らが列席した。写真は、最初の白熱電球とエジソン夫妻。

▼**出口王仁三郎、中国布教（10月）** 現地宗教と提携、東北部の奉天、長春などで大本教を宣教、民衆の大歓迎を受けた。写真は世界紅卍字会会員と王仁三郎（2列目中央）。

◀**ギターの名手、セゴビア来日（10月24日）** スペイン生まれの35歳。東京・帝国劇場で26日から3日間公演、今世紀最高と言われ、一世を風靡した温もりある「セゴビア・トーン」で聴衆を魅了した。

▶**政友会総裁に「憲政の神様」犬養毅（10月8日）** 田中義一前総裁の急死後、最高幹部会が緊急決議。森恪幹事長（左）が湯河原で静養中の犬養を訪ね、75歳の老雄を再び第一線に引き出した。

共同通信社

「国際写真情報」／国際フォト

昭和4年10月

1（火）●初の国産写真フィルム「さくらフォルム」発売。
2（水）●伊勢神宮式年遷宮祭挙行（外宮は5日挙行）。
●警視庁、深夜非常警戒で泥棒五十余人を逮捕。
3（木）●東京・目白駅前の公設市場に女学校卒の女性店員が登場、大評判に。
4（金）●レマルク『西部戦線異状なし』邦訳刊行。
5（土）●豊作の予想がはずれ、東京の白米価格が一週間の間に三回値上げ。
6（日）●中国最大の社会事業団体「世界紅卍字会」の代表が来日。日本での支部設置をめざす。
7（月）●英、ロンドン海軍軍縮会議に日米仏伊を招請。
8（火）●金解禁・軍縮の本に人気集まり、ゴルフ関係書も急伸、と新聞に。
9（水）●米上院、フィリピン独立案を八票差で否決。
10（木）●栃木県国分寺村で四〇〇人罹病の「黄色病」は、貧困によるカボチャの常食が原因と判明。
11（金）●「浅間丸」、サンフランシスコ航路に就航。
12（土）●中ソ国境で武力衝突。ソ連、東三省を攻撃。
●政友会党大会、犬養毅を新総裁に指名。
13（日）●プロレタリア科学研究所創立。
14（月）●陸・海・逓信三省、周波数割当第一回会議。
15（火）●政府、高等官吏の一割減俸を決定（判事・検事・各省官吏の猛反対で、22日撤回）。
16（水）●新響、マーラー「交響曲第四番」を日本初演。
17（木）●東京市人口は前年末で二二二万人。
18（金）●長谷川時雨主宰の「女人芸術」講演会開催。
19（土）●東京・日比谷公会堂、落成。初の本格ホール。
20（日）●群馬県の東電トンネル崩落。一一人生き埋め。
21（月）●各地で「電灯五〇年祭」挙行。
22（火）●東京市、事務職などの「知識階級失業者」登録を開始。初日に二〇〇〇人が殺到。
23（水）●大劇場苦境で帝劇半額割引、松竹もと新聞に。
24（木）●ニューヨーク株式市場大暴落（暗黒の木曜日）。世界恐慌始まる。
25（金）●東京で、公募設計の朝日住宅展覧会開催。入選作を実際に建築・展示。建て売り住宅の先駆。
26（土）●東京の自動車は二万台で、一日に五～六台増加中、運転手も日に三〇人誕生、と新聞に。
27（日）●小菅刑務所落成。受刑者一三〇〇人で建設。
28（月）●京都で八ヵ国代表集まり、第三回太平洋会議。
29（火）●日本で最初の万国工業会議。二四ヵ国が参加。
30（水）●全国中学校長協会、入試に筆記復活と決議。
31（木）●大阪府、中学校入学内申書に虚偽の記載をしたとして、小学校長ら一二〇人を処分。

共同通信社

▲警視庁庁舎高塔にクレーム(11月28日)東京・桜田門外に新築中のところ、都市美協会が、宮城を見下ろす不敬などを指摘。上部約10メートルを撤去して、昭和6年竣工した。

朝日新聞社

ユニフォト・プレス

▲バード中佐、南極点上空飛行に成功(11月29日)午前1時14分、フォード3発機「フロイド・ベネット号」で、操縦士ら3人と極点の氷原を確認。バードは、1926年にも北極点飛行を成功させていた。

朝日新聞社

▲遊覧飛行に人気(11月3日)日本航空輸送が、フォッカー・スーパーユニバーサル機を用いて東京・大阪・福岡で「10分間の空の旅」を実施。大阪飛行場では、1回5円にもかかわらず、187人もの人たちが集まった。

▼光州抗日学生運動起きる(11月3日)日本人学生による朝鮮人女学生侮辱を引き金に、日朝学生が大乱闘。官憲の朝鮮人学生検挙を機に、朝鮮全土は抗日デモで大荒れとなった。写真は、デモ学生を裁く光州地方法院公判。

▲駐華公使・佐分利貞男、怪死(11月29日)箱根のホテルで死体発見。拳銃自殺と見られたが他殺説も。「軟弱外交」と軍部の非難をあびた幣原外相のもと、対華外交に踏み出したばかり。写真は外務省に運ばれた遺体。

毎日新聞社

◀児玉誉士夫、天皇に直訴(11月1日)神宮競技場に行幸途中の天皇の行列に飛び出し、新労農党結党阻止の訴状を差し出して逮捕された。児玉(中央後ろ姿)は18歳。右翼・建国会会員。後の「政界の黒幕」の誕生だった。

昭和4年11月

1(金)●浦和高校生六〇〇人、寮の自治要求し籠城。

2(土)●『幸徳秋水思想論集』が発禁処分となる。

3(日)●朝鮮・光州で抗日学生運動(全土に波及)。

4(月)●熊本県、牛六万頭の八割が流感に罹病と発表。

5(火)●松江高校生徒会、校長に辞職勧告決議文提出。

6(水)●東京市、細民救済の産児制限計画を、内務省などの堕胎教唆のおそれとの反対で断念。

7(木)●「日本反帝同盟」結成。日本の朝鮮・中国侵略に、民族独立などを掲げて反対運動を展開。

8(金)●駄菓子による食中毒増加で、警視庁が菓子問屋を一斉検査。

9(土)●閣議、予算案決定。二二年ぶりに公債なし。

10(日)●ソ連共産党中央委総会、ブハーリンを追放。

11(月)●内務省で同潤会住宅抽選。最高倍率九〇倍。

12(火)●函館の私立大谷高女、全国に先駆けて女学生の軍事訓練を実施。

13(水)●矯風会のガントレット恒子が米での女性軍縮会議に日本から初参加、と新聞に。

14(木)●神戸市営住宅、家賃値下げ運動で一割値下げ。

●東京府市場協会、一般日用品・食料品値下げ。

15(金)●新潟県からオランダに、アネモネとクロッカスの球根一〇〇万球を輸出、と新聞に。

16(土)●都市別人口は、一位大阪、二位東京と統計局。

17(日)●東京・浜町公園で、東洋一のプールが開業。

18(月)●高知県で、底引網漁業に反対する漁民五〇〇〇人が警官と乱闘。

19(火)●横浜正金銀行、金解禁に備え、英米金融団と総額一億円のクレジット設定契約に調印。

20(水)●政府、金解禁を翌年一月一一日と内定。

21(木)●日本借家人組合、三割値下げ要求大会を開催。

22(金)●日本初の専用競技場、花園ラグビー場開場。

23(土)●大日本スケート競技連盟、結成。

24(日)●ソ連が、内モンゴルのハイラルを占領、中ソ国境でソ連の攻勢が続き、張学良軍苦境。

25(月)●社会政策審、小作法整備の答申案を可決。

26(火)●秋田県前田村小作争議で、武装争議団と警官隊・暴力団が衝突(12月27日和解、首謀者検挙)。

27(水)●文部省、「思想善導」のための文献刊行を目的に「思想文献編纂調査会」を設置。

28(木)●都市美協会、新築中の警視庁庁舎の望楼を、景観などを理由に撤去要請。

29(金)●米のバードら、初の南極点往復飛行に成功。

●溝口健二監督「都会交響楽」封切。

30(土)●青森市の警察が銭湯の混浴を厳禁、と新聞に。

清水建設提供

▲新交詢社ビル開館(12月28日)慶応義塾出身の政治家・実業家ら「社員」が、震災で焼失した東京・京橋の社屋を復興。鉄骨鉄筋7階建て。写真は3階の談話室。

▲マンガ家・岡本一平一家渡欧(12月5日)妻の作家・かの子、東京美術学校生の長男・太郎とともに神戸港発。夫妻は3年後に帰国、太郎は昭和15年までパリに滞在。一平(43)は「朝日新聞」紙上の斬新なマンガで、人気があった。

▼除夜の鐘、全国中継(12月31日)日本放送協会が、前年の天皇即位の大典、大阪防空演習などで実況放送に自信を得て実施。東京・浅草観音堂鐘楼前にマイクをおき(写真)、百八つの鐘の音を初めて全国に流した。

▶ダグラス・フェアバンクス(46)来日(12月16日)夫人の女優、メアリー・ピックフォード(36)を同伴、米映画のスーパースター二人の行くところ、どこも大騒ぎ。写真は17日、京都での松竹主催の晩餐会。

▼信用組合の窓口大混雑(12月)前年来、大蔵省は銀行合併を推進する一方、不況による中小銀行の淘汰を放置。資金の借り出し先を失った商工業者の金融難は、深刻だった。

▼東京駅八重洲口が完成(12月16日)日本橋・京橋など、駅東の利用客の便宜をはかり開設。名称は昔ながらの地名から。翌年4月には総2階建ての駅舎も完成した。

毎日新聞社

朝日新聞社

NHK提供

昭和4年12月

1(日)●阪神電鉄社長・島徳蔵、背任で起訴。

2(月)●マンガ家・岡本一平、「東京朝日新聞」特派員としてロンドン軍縮会議取材のため東京駅発。

3(火)●警視庁、元値を付け替える「半額セール」・高額商品のあたらない「福引き」など調査。

4(水)●不況で経営難の帝劇、経営権松竹委譲を決定。

5(木)●絹糸工業会、一二%の操短を決定。

6(金)●埼玉県村君村の小作争議で小学校全児童が同盟休校、消防組七十余人も総辞職。

7(土)●東京市、経費節約で橋梁照明七割削減を開始。

8(日)●千葉の京成電灯値下げ同盟会、電気不買決定。

9(月)●京城(ソウル)で学生が反日デモ。千余人検挙。

10(火)●群馬県伊香保温泉にケーブルカーができ「駕籠屋と馬子が飯の食い上げ」、と新聞に。

11(水)●文部省で女子中等教育調査会、男女共学検討。

12(木)●生糸市場大暴落(15日、製糸業界は二週間の一斉休業に入る)。

13(金)●就職難で私娼に身を落とす女性増加と新聞に。

14(土)●レコード商戦は一曲五万枚売り上げが目標、前年の一〇倍の規模で競争中、と新聞に。

15(日)●東京のニコライ堂が復興、成聖式を挙行。

16(月)●米映画俳優、D・フェアバンクス夫妻、来日。

17(火)●中国国民政府、「対華二一カ条要求」への参画を理由に、小幡酉吉新公使の承認を拒否。

●広島の厳島弥山原生林を天然記念物に指定。

18(水)●前朝鮮総督・山梨半造、瀆職罪で起訴。

19(木)●安田保善社、サラリーマン金融始める。妻帯の俸給生活者に限り三〇〇〇円まで、と新聞に。

20(金)●一〇月来のソ連・張学良軍紛争で和議協定。東支鉄道は原状回復で決着。

21(土)●川尻東次らの人形劇団「プーク」、第一回公演。

22(日)●独でナチス提案の戦争賠償に関する国民投票実施。ヤング案支持され、ヒトラー敗れる。

23(月)●大阪の日本GM工場、二五〇人レイオフ。

24(火)●大阪造幣局、金解禁に備え金貨鋳造を開始。

25(水)●森永製菓鶴見工場で、キャラメルの自動包装設備が完成。

26(木)●トーキー輸入盛況。検閲受付二五〇〇巻記録。

27(金)●盛岡で女性団体の反対により三業地指定中止。

28(土)●中国国民政府、治外法権の撤廃を宣言。

29(日)●上越線の清水トンネルが貫通。長さ東洋一。

30(月)●東京の女性五人、女性初の乗鞍岳冬季登頂。

31(火)●インド国民会議派がラホールで大会。ガンジー提唱の完全独立と不服従運動再開を決議。

俄楽多市（がらくたいち）

流行語 洋風ドタバタで憂さ晴らし

「アチャラカ」。七月、東京・浅草でエノケンの「カジノ・フォーリー」が旗揚げされ、レビュー仕立てのドタバタ喜劇が人気を呼んだ。これがあちら風（洋風）という意味で「アチャラカ風レビュー」と呼ばれ、不況の中の憂さ晴らしとしてもてはやされた。

「流線型」。八月、ドイツの飛行船「ツェッペリン伯号」が茨城県霞ケ浦に飛来し、空気抵抗を少なくした流線型の機体が注目された。以来、建築や女性のファッションにも流線型が大流行、時代のキーワードとなった。

「ラッシュアワー」。この年頃から電車やバスの混雑がひどくなり、流行歌「東京行進曲」の中で、その混雑が〝ラッシュアワーで拾ったバラを……〟と歌われてから、ラッシュアワーが混雑を示す言葉として一般に広がった。

「オステーキ」。女学生用語で、「すてき」という言葉に、敬語の「オ」をつけたもので、「スカートがとってもオステーキだわ」などと使われた。女子学習院から、ほかの女学校に広がったと言われる。

▲この年4月1日、東京・新宿と神奈川県の片瀬江ノ島を1時間25分で結ぶ小田原急行電鉄江ノ島線が開通した。運賃は片道96銭だった。

小田急電鉄提供

CM100年

ポスター「銘酒金陵」（西野金陵）

銘酒 金陵

▲広告でもモボやモガが流行する中、純日本風の絵柄で好評だった。山川秀峰画。

女性 女性の新しい職業 エレベーターガール

新築開店した上野・松坂屋にエレベーターガールが登場して、客の人気を呼んでいる。同店のエレベーターは水平停止開閉式という最新式で、運転も簡単なところから女子を採用したもので、年齢は一四歳から二〇歳くらいまで。給料は普通の女店員並みで、高等小学校卒が日給八〇銭、女学校卒が一円五銭だが、このほかに手当てがつき、勤務は一時間交替というから、これから女性の新しい職業として注目されそうだ。

（「報知新聞」四月二四日）

▲増田まさじ画「トテシャンの行方?」。トテシャンは〝とても美人〟の意で、当時の流行語。「東京パック」四月号収録。

日本漫画資料館提供

交通 いよいよ風前の灯 激減する人力車

自動車が年々、加速度的に普及し、人力車がその圧迫にあえいでいる。大正元年、東京府下で自動車は三〇〇台に満たなかったが、今や一万六〇〇〇台を数え、荷車十五万数千、人力車一万三〇〇〇台だったものが、それぞれ一四万台と七〇〇〇台、人力車にいたっては、実に七割の激減である。

これを全国的に見ると、自動車は大正元年から昭和三年までに、七六〇台から三万六〇〇〇台に増加し、荷車も一八〇万台から二二五万台にふえたが、人力車だけは一一万七〇〇〇台から六万三〇〇〇台に半減した。このまま進めば、ここ数年内にも、人力車は我々の前から姿を消してしまうことになりそうだ。

（「時事新報」一月七日）

三面記事 アニメに賭ける若者たち

昭和四年四月、京都の映画好きの青年によって、影絵映画（アニメ）の制作会社「童映社」が設立された。メンバーは同志社大学の学生だった中野孝夫、明大を中退した舟木俊一など六人。当時、子ども向けの映画は極端に数が少なく、文部省推薦の教育映画は無味乾燥。そこで、子どもが見て面白く、ためになる映画を……という意気ごみでスタートした。

第一作の「アリババ物語」が完成したのは二ヵ月後の六月、さらに夏休み中に第二作の「一寸法師」を完成させた。大変な情熱だが、街に失業者があふれ、迫りくる不安の中で、何かに情熱を傾けずにいられなかったという。童映社ではこれらの作品に、業者から借りた「マイ・ボーイ」などの無声映画をつけて、各地で移動映画会を開いた。料金は、子ども一〇銭、おとな二〇銭、どこでも客は大入りだったが、会場費などを引くと昼食代も出ず、焼芋をみんなで分けあって食べた。しかし映画会の中から、人々の心の中にある戦争反対の気分を感じとり、翌年、初の反戦アニメ「煙突屋ペロー」を世に出す。

（「京都新聞」昭和六一年八月二一日）

助六・石井健之提供

▲この年7月、従来の漆塗りに替わってエナメル塗りの下駄が登場。1円40銭。乾きが早く、色も鮮やかだった。

風俗 「モガ」のルーツは横浜の私娼だった

「モガ」と言えば、銀座がおこりと思われているが、発生は横浜・本牧（ほんもく）の〝チャブ屋〟であるようだ。本牧のチャブ屋は、開国の頃から外人相手の娼窟（しょうくつ）として知られているが、関東大震災を境にすっかり様子が変わった。店は今でも三〇軒を数えるものの、客も女性も日本人ばかり。特にロシア革命以後は、ロシアの帝政派の美貌の令嬢がひしめき、客を引く姿がものの哀れを感じさせたが、今や一人として見られない。

しかも、日本人娼婦は女学校出あり、洋行帰りありで、そのモダンさは大正のうちから銀座の先駆をなしていた。今でも多くの女性が、「銀座モガ」と伯仲（はくちゅう）する洋装ぶりを発揮している。

（「グロテスク」七月号）

▲6月4日、東京・銀座の泰明尋常小学校が竣工し、同月15日、落成式（写真）が行われた。

犯罪 さかさの新聞が命取り 盗賊の失敗

慶大生をよそおって、東京市内を荒らしまわっていたプロの盗っ人（二六）が赤坂表署に逮捕された。男は前科五犯、二月に巣鴨刑務所を出所、赤坂区の市職員方から現金三五〇円を盗んだのを手始めに、市内六〇ヵ所から五〇〇〇円を盗んでいたもの。

逮捕のきっかけは、同署の刑事が虎ノ門公園を通ったところ、慶大の制服を着て、ベンチで熱心に外国の新聞を読んでいる男がいたところが、その新聞がさかさであるのを刑事が発見、「おかしい」とピンときたという。

（「東京朝日新聞」八月一七日）

この年の初もの

六階建ての立体駐車場 東京・丸ノ内に出現

●パイプオルガン　徳川頼貞（よりさだ）から東京音楽学校に寄贈され、二月に披露の演奏会が開かれた

●自動木馬　兵庫県宝塚新温泉（現・宝塚ファミリーランド）に設置

●オールカラー・トーキー　「オン・ウィズ・ザ・ショー」がニューヨークで封切。

●電気バス　中島製作所など三社が共同開発。二五人乗り、最高速度四四・二キロ。昭和七年から、名古屋市内で路線バスに使われた。

はやり歌

お菓子と娘

作詞　西條八十
作曲　橋本国彦

お菓子の好きな　巴里（パリ）娘
ふたり揃えば　いそいそと
角の菓子屋へ　ボン・ジュール

選（よ）る間もおそし　エクレール
腰もかけずに　むしゃむしゃと
食べて口拭く　巴里娘

▶フランス留学から帰国まもない西條八十（写真）が、宝塚歌劇団の「モン・パリ」で流行のきざしを見せたシャンソン調の歌を、オリジナルで作詞した。

残る半（なかば）は　手に持って
行くは並木か　公園か
空は五月の　みずあさぎ

人が見ようと　笑おうと
小唄まじりで　囀（かし）り行く
ラ・マルチーヌの　銅像の
肩で燕（つばめ）の　宙がえり

蒲田行進曲

訳詞　堀内敬三
作曲　R・フリムル

虹の都　光の湊（みなと）　キネマの天地
花の姿　春の匂い　あふるるところ
カメラの目にうつる
かりそめの恋にさえ
青春燃ゆる　生命は踊る
キネマの天地

胸を去らぬ思い出ゆかし
キネマの世界
セットの花と輝く

スターほほえむところ
ひとみの奥深く　焼つけた面影（おもかげ）の
消えて結ぶ幻の国　キネマの世界

春の蒲田（かまた）花咲く蒲田　キネマの都
空に描く白日のゆめ
あふるるところ
かがやく緑さえ　永遠（とこしえ）の
あこがれに
生くる蒲田若き蒲田　キネマの都

◀この頃、東京・蒲田にも撮影所ができるなど、映画はいよいよ全盛期に入ってきた。この歌は、松竹蒲田映画「父親とその子」の主題歌。写真は雑誌「蒲田」。

▶この年一〇月、コロムビア・オーケストラが結成された。楽長は紙恭輔（中央）。

日本コロムビア提供

世界の動き

全世界を恐慌に巻きこんだアメリカの“バブル崩壊”
一日で投機業者一一人が自殺した大暴落！
ウォール街「暗黒の木曜日」の教訓

一九二九年一〇月二四日、ニューヨークの株式市場、ウォール街は、破滅的株価暴落で前代未聞のパニックにおちいった。前年の二八年、最高の株価を記録した強気相場は一変。それは、生産の低落と大量の失業者をもたらした“世界恐慌”の幕開きだった。

▲株価大暴落の新聞に群がる人々。10月29日の火曜日は、ニューヨーク株式市場の歴史の中で最も惨憺たる日となった。 CORBIS-BETTMANN PPS

「売り」「売り」の一色で株取引一二八九万株

一九二九年一〇月二四日木曜日、ニューヨーク・ウォール街では、株式相場はいつもと変わらない安定した取引で始まった。しかし取引量は非常に多く、午前一〇時の前場が始まって一時間もたたないうちに、株価は異例のスピードで下がり始める。やがて、ティッカー（株式表示板）は下げ一色になった。恐怖にかられた人々が、株の売り逃げに狂奔、さらに相場を混乱させた。売り注文のすさまじさに表示板もパンク、正確な状況はもう誰にもわからない。

出来高は午前中の二時間で約五七〇万株に達し、前日一日の六三六万八〇〇〇株にほぼ匹敵する異常なものだった。暴落ぶりはすさまじく、有力株が軒並み値を下げる中、前日六八ドルで大引けしたラジオ関連株が四五ドル、スチール関連株は二〇〇ドルを割り一九五ドルに下落した。ど肝を抜かれ、不安にかられた投機家や群衆がウォール街に集まり始めた。その数は午前一一時すぎには数千人に達していた。何が起こるかわからない状況に、特別警備隊も出動する騒ぎとなり、「群衆の悲鳴はまるで雷鳴のよう」（一〇月二五日付「ニューヨーク・タイムズ」）であった。

正午には、この激しい地滑りを止め、信用回復をはかるため、ナショナル・シティ銀行社長のチャールズ・ミッチェルらアメリカの最有力銀行家五人が、J・P・モルガン銀行に駆けつけた。彼らが株価を引き戻すため、二〇〇〇万ドルを出し合ってUSスティール社株を一万株買い始めると、市場のムードが一変し、市場は落ち着きを取り戻したが、あまりのショックに、投機業者の自殺が相次ぎ、一一人にものぼったのである。結局、この日は一二八九万四六五〇株が売買された。後に「暗黒の木曜日」と呼ばれる、ウォール街始まって以来の最悪の一日だった。

その五日後の二九日、またしても大崩壊が訪れた。午前の取り引きが始まると、わずか三〇分で三二五万株が売られ、大引けまでの五時間で、主要五〇株の平均価格は四〇ドルも下落する。市場は、下落とほんの弱々しい反発という不気味なパターンに入った。結局この日売られた株は一六四〇万株に達し、一〇〇億ドルが紙切れ同然となった。

実は、アメリカでは一九二〇年代後半から不況に落ちこみ、自動車や冷蔵庫などの生産も伸び悩む中、国民の消費意欲も極端に冷えこみ、この年三月には繊維産業のストライキも続出した。しかしフーバー大統領は、ストライキが起こるわずか三ヵ月前には「工場の進歩と膨大な労働力余剰」を絶賛し、アメリカ経済の健全性を訴える強気な発言を行っていた。そのため投機家たちの楽天的な株式投資熱はさめず、過熱したウォール街に冷や水があびせられる時が来るのは、当然のことであった。

▲ニューヨーク、ウォール街の証券取引所の前は、不安にかられた投機家や群衆で埋めつくされた。 CORBIS-BETTMANN／PPS

失業・倒産の嵐は世界中におよんだ

株価の大暴落は企業業績の悪化、そして大恐慌の予兆だった。自動車生産は一九二九年春の生産指数を一〇〇とすると、その年の暮れには約三分の一に凋落する。株式投資に深くかかわった銀行の痛手も大きく、一九二九年には六五九の銀行が店を閉じ、翌三〇年になると事態はさらに悪化、一三九三の銀行が倒産した。

失業も深刻化していった。株のセールスマンの中には、街頭で株ならぬリンゴを売るものさえ現れ、一般事務員はペンをブラシに持ち替え、オフィス街で靴磨きに変身した。また、「ビジネス・ウィ

▶金融恐慌は日本も襲った。写真は銀座のカバン店。生産拡大で収益の低下を克服しようとしても、商品はダブつくばかり。 影山光洋

ーク」一九三一年一〇月七日号で、「ソ連邦からの熟練労働者六〇〇〇人の求人に対し、ソ連の経済代表部のニューヨーク事務所には、現在までのところ、一〇万人を超える申し込みが殺到している」と報じられたほどである。

失業者は一九三〇年の初頭には四〇〇万人、同年一一月にはその数は六〇〇万人に跳ね上がった。そして一九三三年、フーバー大統領が職を辞した時には、実に総労働人口の約四分の一にあたる一三〇〇万人が職を失っていたのである。

アメリカの危機は全世界に波及した。生産の低迷するアメリカの輸出高も、一九二九年の五一億六〇〇〇万ドルから三二年は一五億八〇〇〇万ドルに激減、輸入も約三分の一に減るなど物資の流れはしぼみ、世界経済に大打撃を与えていった。日本もその例外ではなく、頻発する労働争議と失業が深刻化、生糸や綿工業などの中小商工業者が次々と倒産に追いこまれた。

景気の回復は遅々として進まなかった。足取りは重く、かろうじてアメリカの工業生産が一九二九年の水準に戻ったのは、一九四〇年の末。本格的な回復を達成したのは、第二次世界大戦が終わる一九四五年になってからであった。一九二九年の大暴落は、実に一六年間にもわたり、世界経済に暗い影を落とし続けたのである。

「暗黒の木曜日」とは何だったのか。

「今で言う"バブル"の大崩壊です。株価の大暴落という点で見ると異常事態だが、それは逆に、生産と消費という経済の実体を無視、株だけが浮かれている異常な状態を正す動きだったと言えます。しかし、それがいき過ぎ、パニックになってしまった。日本は今、バブル崩壊後、金融や財政でかなりのてこ入れをしていますが、いずれにせよ、国でも企業でも、収支バランスを借金でつくろったり、マネーゲームに走る、つまりは実力や実態に裏打ちされない異常な泡膨れは続くはずがない、ということを知るべきです」

こう語るのは、東海総合研究所社長の水谷研治氏である。

ハーバート・C・フーバー（1874〜1964）
米の政治家。鉱山事業で成功。食糧庁長官、商務長官を経て、一九二九年、第三一代大統領。恐慌の克服に失敗、三二年、大統領選でルーズベルトに敗北。

▶日本の農村での不況は深刻だった。写真は、借金がかさんで電気代を払えず、電力会社に電灯線を切られた農家。

外から見たNIPPON

作家・ヤーコプが描いた超インフレ下での"日独交流"

—佐伯 修

時は一九二三年、敗戦国ドイツの人々は、極度のインフレによる「紙幣の洪水」の中で、もがき暮らしていた。ベルリンに住むルドルフ・イエニッケは、作曲家としての大志を抱きながら、場末の寄席でオペレッタの伴奏を指揮し、女優である妻・ジャクリーヌもまた、寄席の舞台に立つ毎日。さらに、二人は狭い自宅の一室を、日本人「ナカムラ教授」に貸して、やっと生計をたてている。だが、ある夜、疲れて帰宅したが金のない二人は、外出中のナカムラの酒を盗み飲みしてしまう……。

この年発行のハインリヒ・エドアルト・ヤーコプの小説『ジャクリーヌと日本人』（相良守峯訳）は、こんなふうに始まる。

一九二三年当時、ヤーコプと親交のあった成瀬無極（独文学者）によれば、その頃、ヤーコプらとドイツの日本料理店でスキヤキを食べたら、一人の勘定が二万八〇〇〇マルクもしたという。しかし、その金額は米ドルに換算すると、当時の五五セントに満たず、成瀬の懐を大して痛めなかったという。当時、マルクが大暴落したドイツには、同盟国イギリスのポンドや米ドルを大量に持った、留学生をはじめとする日本人があふれていた。強力なポンドやドルの札びらをきって、成金然とふるまう日本人に対する、ドイツ人の嫉妬と反感は、時に黄色人種への露骨な偏見となって噴出した。

ナカムラが、酒場で「猿」呼ばわりされて、憤慨して帰ってきた晩も、ルドルフは、ナカムラに同情はしたものの、後で、LとRの発音を区別できない日本人のことを、ジャクリーヌとベッドでおかしがる。だが最初にジャクリーヌが、ナカムラとその友人たちの知性と人間性にひかれ、次いで、当初は愛妻の周囲に群がり親密さを増してゆく日本人たちへの嫉妬に燃えかけたルドルフも、彼らの誠意に気づき、彼らへの「無限の好奇心と同感」をおぼえ始める。そして、夫妻は、ナカムラたちと、ハイデルベルクで愉快な休日をすごすが、その時、関東大震災の報が届き、妻子が生死不明のナカムラは急ぎ帰国。ルドルフは、ナカムラが自己流に独語訳してくれたインドの古詩に触発されて、ついに「基督の教会にて歌われるべき仏教的苦悩の交声曲」を完成させる。

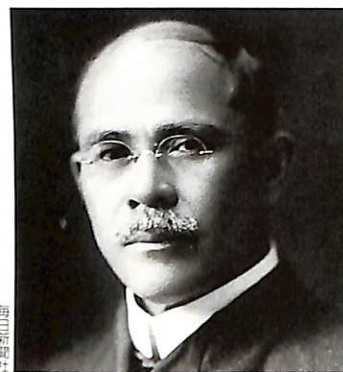
なお、作者・ヤーコプ（一八八九〜一九六七）は、詩人、評論家でもあり、第二次大戦中は、米国に亡命、妻・ヘルタは女優だった。彼と交際があった日本人には、土方与志（演出家）、実吉捷郎（独文学者）、羽仁五郎（歴史学者）らがいる。

▲ハイドンら音楽家の伝記も著す。

往きて還らぬ

◀6月29日　内田魯庵（61）
批評家、小説家。小説『くれの廿八日』、文学回想記『思い出す人々』など、『罪と罰』などの翻訳も手がけた。

▲8月26日　アーネスト・サトウ（86）
幕末・明治期のイギリスの外交官。1862年来日、1895年日本公使。著書に『一外交官の見た明治維新』など。

毎日新聞社

▲9月6日　小川一真（68）
明治期の写真家で、日本の写真業・写真出版業の先駆者。明治17年写真館・玉潤館開業、22年美術雑誌「国華」創刊。

▲4月13日　後藤新平（71）
明治から大正期の政治家。明治31年台湾総督府民政長官に就任。初代満鉄総裁、内・外相、東京市長などもつとめた。

▲1月27日　久邇宮邦彦（55）
皇族、軍人。皇太后・良子（昭和天皇の皇后）の父宮。明治35年皇族で初めて陸軍大学校卒業。大将、死後に元帥。

▲9月29日　田中義一（65）
明治から昭和期に活躍した軍人、政治家。昭和2年首相となるが、4年張作霖爆殺事件の責任を取り総辞職。

▲8月16日　津田梅子（64）
女子英語教育の先駆者。明治4年岩倉大使一行と7歳で渡米、15年帰国。33年女子英学塾（後の津田塾大）創設。

▲6月30日　W・モラエス（75）
明治から大正期のポルトガルの外交官。晩年は徳島に住む。『大日本』『徳島の盆踊り』などの日本見聞記を残す。

▲3月4日　澤田正二郎（36）
俳優。大正6年新国劇を創設、迫力ある殺陣で爆発的な人気を集めた。当たり役に「月形半平太」「国定忠治」。

▲12月20日　岸田劉生（38）
洋画家で、娘・麗子の肖像画シリーズで知られる。大正4年木村荘八らと草土社を創立。ほかに「切通しの写生」など。

オリオン・プレス

▲8月19日　S・ディアギレフ（57）
ロシアのバレエ団「バレエ・リュス」の主宰者。20世紀初頭の芸術運動のリーダーで、大作曲家を次々世に出した。

▲7月25日　牧野省三（50）
映画製作者・監督。"時代劇の父"と呼ばれた。尾上松之助をはじめ多くのスター、監督を育成。「実録忠臣蔵」など。

▲4月4日　C・F・ベンツ（84）
独の機械技術者で、ガソリン自動車の発明者。1883年ベンツ社を創業、1885年には初の自動三輪車を開発した。

週刊 YEAR BOOK
日録20世紀

1930 昭和5年 721 ¥560 講談社

日本人134人を殺害した「霧社事件」の衝撃
東京・大阪間、夢の超特急「つばめ」発車！
"非暴力"ガンジー、390キロの「塩の行進」

浜口首相狙撃事件！

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀 第70号 7月7日(火)発売 毎週火曜日発売 講談社 定価560円 本体533円

1930［昭和5年］

●特集
東京駅頭で首相狙撃事件！／浜口雄幸「男子の本懐」と大失業時代／台湾・少数民族はなぜ蜂起したか 日本人一三四人を殺害した「霧社事件」／東京—大阪間八時間二〇分 夢の超特急「つばめ」発車！／英国の支配に対抗して三九〇キロを歩く「非暴力」ガンジーの「塩の行進」

●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する三六五日…金輸出解禁を実施（1月11日）／ロンドン海軍軍縮会議始まる（1月21日）／米のローエル天文台、冥王星を発見（2月18日）／加藤海軍軍令部長、軍縮条約に反対し天皇に単独辞表提出（6月10日）／谷崎潤一郎「妻を友人に与える声明」（8月18日）／争議中の富士紡川崎工場に「煙突男」出現（11月16日）／長島愛生園が開園（11月20日）

●人物クローズアップ
五一二編の詩を残して金子みすゞの死

●決定的瞬間
国交断絶を招いた第一回W杯決勝

●美の出会い
倉敷に「大原美術館」がオープン！

●女たちの肖像…林芙美子『放浪記』が五〇万部／勝者・敗者…木谷徳雄、第一回スケート選手権優勝／証言・あの日この日…田中清玄、加藤寛治／「現場」を歩く…大震災・戦災と言問橋／20世紀博物館…紙の博物館（東京）／外から見たNIPPON…ビハリ・ボースの"日露戦争観"
●ベストセラー…川端康成『浅草紅団』／スターと名場面…市川右太衛門「旗本退屈男」／モノ語り'30…「バスクリン」

■既刊好評発売中（既刊69冊！ 1930・1940・1950・1960・1970・1980年代がそろいました）

一九三〇年代

第43号1931［昭和6年］ 第44号1932［昭和7年］ 第45号1933［昭和8年］ 第46号1934［昭和9年］ 第47号1935［昭和10年］ 第48号1936［昭和11年］ 第49号1937［昭和12年］ 第50号1938［昭和13年］ 第51号1939［昭和14年］ 第52号1940［昭和15年］

一九四〇年代

第19号1941［昭和16年］ 第20号1942［昭和17年］ 第21号1943［昭和18年］ 第22号1944［昭和19年］ 第3号1945［昭和20年］ 第23号1946［昭和21年］ 第24号1947［昭和22年］ 第25号1948［昭和23年］ 第26号1949［昭和24年］ 第27号1950［昭和25年］

一九五〇年代

第36号1951［昭和26年］ 第37号1952［昭和27年］ 第38号1953［昭和28年］ 第39号1954［昭和29年］ 第40号1955［昭和30年］ 第41号1956［昭和31年］ 第42号1957［昭和32年］ 第6号1958［昭和33年］ 創刊号1959［昭和34年］ 第11号1960［昭和35年］

一九八〇年代

第53号1981［昭和56年］ 第54号1982［昭和57年］ 第55号1983［昭和58年］ 第56号1984［昭和59年］ 第57号1985［昭和60年］ 第58号1986［昭和61年］ 第59号1987［昭和62年］ 第60号1988［昭和63年］ 第10号1989［平成元年］ 第61号1990［平成2年］

一九二〇年代 最新刊

第64号1924［大正13年］ 第65号1925［大正14年］ 第66号1926［昭和元年］ 第67号1927［昭和2年］ 第68号1928［昭和3年］

■今後の刊行予定
▶第71号1911［明治44年］7月14日発売
平塚らいてうと「青鞜」創刊！●「特高」創設！●銀座にカフェー・ブーム●「モナ・リザ」盗難事件
▶第72号1912［大正元年］7月21日発売
明治天皇崩御と乃木大将殉死！●白瀬隊、南極探検●「新世界」と「吉本興行」●「タイタニック号」の悲劇
▶第73号1913［大正2年］7月28日発売
野口英世の栄光と錯誤●「宝塚少女歌劇」発足！●「大正政変」起こる●「T型フォード」大量生産へ
▶第74号1914［大正3年］8月4日発売
"東洋一"の東京駅、開業！●「東京大正博覧会」大成功●「身の上相談」欄登場●第1次世界大戦勃発！
▶第75号1915［大正4年］8月11日発売
「アラビアのロレンス」の実像●「ゴンドラの唄」大ヒット！●対中国「21ヵ条要求」●「ルシタニア号」爆沈
▶第76号1916［大正5年］8月25日発売
新兵器「タンク」出現！●葉山「日蔭茶屋事件」●労働者保護「工場法」の実態●怪僧・ラスプーチンの死

ミニ事典
1929年のキーワード

東北政務委員会
南京の中国国民政府が、対日妥協路線放棄を宣言した張学良を主席として、奉天においた政治機関。一月九日設立。東三省を支配する奉天軍閥・張学良政権の同化推進がねらいで、国民政府からも一三人の委員が任命された。

モナコ・グランプリ
モナコのモンテカルロで行われる自動車レース。四月一四日、第一回大会開催、一六台のレーシング・カーが急な坂道、一〇ヵ所のコーナーを含む三・一八キロを一〇〇周、激しいデッド・ヒートを演じた。優勝は平均時速八〇キロで走ったウィリアムズの「ブガッティT35B」。一九五〇年（昭和二五）からはF1グランプリ・シリーズのひとつとなっている。

四・一六事件
日本共産党の再組織を根絶するため、内務省警保局が四月一六日未明に行った検挙・弾圧事件。一道三府二四県の警察・特高を動員、治安維持法をたてに、約四〇〇〇人を次々と逮捕・拘禁した。この大検挙をまぬがれた鍋山貞親、佐野学、市川正一、三田村四郎らの幹部も六月までには逮捕され、前年の「三・一五事件」以降も着実に組織拡大をはたしていた共産党は、壊滅的打撃を受けた。

第一次五ヵ年計画（ソ連）
ソ連の経済計画。重工業化を促進し、一九二八年一〇月から三三年九月までの五年間に工業生産の一八〇パーセント増を達成しようとした。「社会主義建設の大転換」と評価される。スターリンの指令により、国家計画委員会と最高国民経済会議が作成。この年四月二三日から二九日まで開かれた第一六回党協議会で、この計画を過度な野望としたブハーリンら右派の反対を押し切り、正式に採択された。

井上財政
金本位制に信頼をおき、金解禁によるデフレ政策で経済の建て直しをはかろうとした、蔵相・井上準之助の財政政策。浜口雄幸民政党内閣のもと、七月二日に満々たる自信を持って船出。まず徹底した緊縮を断行、翌年の金解禁に備えたが、世界恐慌勃発のため「嵐の中に窓を開ける」結果となり、かえって日本経済に大打撃を与えた。昭和六年一二月、若槻内閣総辞職で井上財政も崩壊した。

▲金融界・財界に強い影響力を持った井上準之助。

「戦争史大観」
関東軍作戦主任参謀で、後の「満州国」建設に暗躍した石原莞爾が、七月四日、中国の長春で行った講演のタイトル。将来の日米戦争を予言した内容で知られる。この戦争は人類最後の世界大戦で、人類が最大限の闘争力を発揮する殲滅戦になるなどと述べ、日本は満州（中国東北部）を確保するなどアメリカに対抗しうる国力を準備すべきとして、陸軍内部に大きな影響を与えた。

▲6月、立川飛行場に勢ぞろいした「フォッカー・スーパーユニバーサル」。欧米でも、安全性・経済性などで高い評価を得ていた。

「フォッカー」機
日本の旅客機時代の創成期を支えた二種類の飛行機。前年設立の日本航空輸送の、初期の主力機となった。「フォッカー・スーパーユニバーサル」はアメリカ製で、単発・乗客六人・最大時速二三五キロ、おもに国内線に使用。「フォッカーF7」はオランダ製で、三発・乗客八人・最大時速一八五キロ、おもに満州・台湾線に使用された。「スーパーユニバーサル」は、後に中島飛行機が国産化し、四七機が生産された。

捕虜に関するジュネーブ条約
正式には「戦争捕虜の待遇に関する条約」。七月二七日、赤十字国際委員会外交会議で成立。四八ヵ国が調印したが、日本は批准しなかった。一九〇七年のハーグ条約に比べ、捕虜の資格・身分が広く解釈され、待遇についての人道的配慮がはかられた。一九四九年、条約締結国以外の拘束、違反に対する処罰などを追加、さらに改正された。

労働女塾
日本労農党の織本貞代が、東京の東洋モスリン亀戸工場の裏手に八月二日に開設した、女子工員のための塾。四〇人余に裁縫や料理を教え、意識向上をはかった。この塾の出身者が翌年九月、人員整理を契機に起こった東洋モスリン亀戸工場争議の中心になって活躍したが、敗北して故郷に帰り、塾も閉鎖した。

「嘆きの壁」事件
イスラム教徒とユダヤ教徒の共通の聖地・エルサレムで起きた、八月二三日から一〇日間におよぶ流血事件。アラブ側は八七人、ユダヤ側は一三三人もの死者を出す事態となった。両者は、一九二〇年にイギリスがパレスチナを委任統治下におき、ユダヤ人の移住を推進して以来、緊迫。八日前に、「嘆きの壁」でユダヤ人大群衆がパレスチナへの国家再興を意味するシオニズム推進を叫んだことが、事件の引き金となった。

教化総動員運動
国体観念の明徴、国民精神の作興、経済生活の改善、国力の培養などを通じ国民の精神や思想の統一をめざす、文部省主導の運動。九月一〇日、各学校に訓令が出され、運動を具体的に進める機関として中央教化団体連合会が設立された。その背景には、震災以降、国民の思想偏向が目立ち、生活がふしだらになったという文部省の危機認識があった。

小菅刑務所
東京府下綾瀬（現・東京都葛飾区）に作られた刑務所。震災で壊れた建物を復興、一〇月一七日に完成した。司法省技師・蒲原重雄の設計。中央監視塔から左右に広がる棟は鳥の羽ばたきをイメージしたもので、日本の表現主義建築の最後を飾る傑作。刑務所を懲罰でなく教化の場と位置づける新しい考え方に基づき、衛生や照明に重点をおいた。現在の東京拘置所。

▲小菅刑務所。監視塔を時計台兼用とし、威圧感を和らげている。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1929

CONTENTS

●編集
講談社総合編集局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室 茂村巨利・渡邉裕
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エー・ビー・シー・プレス 株カマル社 株コミュニケーション
ハウス・ケースリー・シト・プロ 有マックス 有マライカ
飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 菊地美優貴 小松邦宏 張替政展
藤森雅弘 光森忠勝 結城順一 吉田忠正
●写真協力
石井健之 尾形光彦 乙咩雅一 影山光洋 影山智洋 田島昭 伯馬一憲 田代真一
朝日新聞社 「イリュストラシオン」 オリオン・プレス 共同通信社 国際フォト CORBIS BETTMANN G・I・P・
Tokyo 筑摩書房 PPS 毎日新聞社 マツダ映画社 ユニフォト・プレス
小田急電鉄 資生堂 清水建設 助六 日本コロムビア 阪急百貨店
NHK放送博物館 大宅壮一文庫 川喜多記念映画文化財団 呉市企画部海事博物館推進室 THE KOBAL COLLECTION
東京国立博物館 東京ドイツ文化センター 日仏会館図書室
日本近代文学館 日本漫画資料館

週刊YEAR BOOK 日録20世紀 1929
●「暗黒の木曜日」と世界大恐慌! 7月14日号
第2巻第26号 通巻69号 平成10年7月14日発行(毎週火曜日発行)
編集人 近藤達士 発行人 丸本進一 発行所 株式会社講談社 郵便番号112-8001 東京都文京区音羽2-12-21 (編集)03-3944-1295 (販売)03-5395-3604
定価560円 本体533円

雑誌 23712-7/14 T1123712070563
Ⓛ 2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 大村製本株式会社